

# HP OpenView Operations for Windows

アップグレード ガイド

ソフトウェア バージョン : 7.5

Windows® 版



製造番号 : B7491-99050

2005 年 4 月

© Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## ご注意

### 保証について

Hewlett-Packard 社は、この文書に関して市場性および特殊目的への適合性の暗黙の保証を含む一切の保証を行わないものとします。Hewlett-Packard 社は、この文書内の欠陥に対して、およびこの文書の提供、実行、または使用に関連する直接損害、間接損害、実損害、偶発損害、および結果損害に対して責任を負わないものとします。

ご使用の Hewlett-Packard 製品に適用される個別の保証条項の複写は、お近くの営業所で入手できます。

### 法律上の権利の制限について

合衆国政府による使用、複製、および開示に関しては、国防総省機関については DFARS 252.227-7013 の「技術データおよびコンピュータ ソフトウェアにおける権利」条項の (c)(1)(ii) 項で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

Hewlett-Packard Company  
United States of America

その他の機関に対しては、FAR 52.227-19(c)(1) および (c)(2) で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

### 著作権について

© Copyright 1983-2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

当社の事前の書面による承諾なく、本書のコピー、改変、または別の言語への翻訳を行うことは禁じられています。この情報は予告なしに変更されることがあります。

### 商標について

Microsoft Windows<sup>®</sup> および Windows NT<sup>®</sup> および MS Windows<sup>®</sup> および Windows 2000<sup>®</sup> および MS-DOS<sup>®</sup> は Microsoft Corporation の米国内での登録商標です。

Netscape<sup>™</sup> および Netscape Navigator<sup>™</sup> は Netscape Communications Corporation の米国内での商標です。

Unix<sup>®</sup> は The Open Group の登録商標です。

Adobe<sup>®</sup> および Adobe Acrobat<sup>®</sup> は Adobe Inc の登録商標です。

その他の製品名は各社の商標またはサービス マークです。

## サポート

次の HP OpenView Web サイトを参照してください。

**<http://www.managementsoftware.hp.com/>**

この Web サイトでは、HP OpenView で提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

サポート Web サイトへは、次の URL から直接アクセスできます。

**<http://support.openview.hp.com/>**

HP OpenView オンライン ソフトウェア サポートは、お客様自身が問題を解決するための機能を提供します。ビジネスの管理に必要な、インタラクティブなテクニカル サポート ツールに迅速かつ効率的にアクセスする方法が用意されています。サポート サイトを利用されるお客様には、次のような利点があります。

- 目的に合った知識ベース ドキュメントを検索できます。
- サポート ケースを報告し、進捗状況を追跡できます。
- サポート 契約の管理を行えます。
- HP サポート 契約を検索できます。
- 利用できるサービスに関する情報を検索できます。
- ソフトウェアを利用する他のお客様と対話できます。
- ソフトウェア トレーニングを調べ、登録できます。

サポートのほとんどの領域は、HP Passport ユーザとしてのご登録と、ログインを必要とします。また、多くのサポートはサポート契約を必要とします。

アクセス レベルの詳細については、次の Web サイトを参照してください。

**[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)**

HP Passport ID の登録は、次の Web サイトで行ってください。

**<https://passport.hp.com/hpp2/newuser.do>**

# サポート終了に関するお知らせ

## OVO 7.5 でのサポート終了

次のプラットフォームは、OVO 7.5 ではサポートされなくなります。次のドキュメントに記載されているサポート マトリクスも合わせてご覧ください。

[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf)

### 管理ノード / エージェント プラットフォーム

- Debian Linux 2.x
- Novell Netware 4.1x
- HP-UX 10.20

### Web コンソール プラットフォーム

- Microsoft Internet Explorer 4.0 および 5.0
- Netscape 4.7

### 統合ソリューション

- Reporter 3.01、3.02、および 3.5
- NNM 6.2 および 6.41
- PD 1.1
- OVIS 4.0、4.5、および 5.0

## OVO 7.5 後のサポート終了

HP OpenView Operations for Windows の 7.5 の後の主要リリースでは、次の管理ノード プラットフォームがサポートされなくなる予定です。

HP では、ご意見をお待ちしております。次回の主要リリースでも、ここに示す管理ノード プラットフォームのサポートを希望される場合は、HP の担当営業またはサポート担当者までご連絡ください。

### 管理サーバー プラットフォーム

次の管理サーバー プラットフォームのサポートは終了する予定です。

- Microsoft Windows 2000 Server/Advanced Server/Datacenter Server Edition

## **管理ノード プラットフォーム**

次のエージェント プラットフォームのサポートは終了する予定です。

- Microsoft Windows NT 4.0 Workstation/Server/Enterprise Edition
- HP-UX 11.22
- Tru64 UNIX 4.x、5.0A、5.1
- AIX 4.3.1、4.3.2、および 4.3.3
- OpenVMS 7.3.1
- SuSE Linux 6.x、7.x、および 8.0
- RedHat Linux 6.x、7.x、8.0、および 9.0
- Mandrake Linux 9.2
- Turbo Linux 6.x および 7.0

## **Web コンソール プラットフォーム**

次の Web コンソール プラットフォームのサポートは終了する予定です。

- Microsoft Internet Explorer 5.5



# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>はじめに</b> .....	9
	このマニュアルについて .....	9
	参照文献 .....	10
	アップグレード計画チェックリスト .....	11
	置換アップグレードと並列移行の違い .....	11
<b>第 2 章</b>	<b>OVO 7.5 への置換アップグレード</b> .....	21
	OVO 7.10、7.20、または 7.21 からのアップグレード .....	22
<b>第 3 章</b>	<b>OVO 7.5 への並列移行</b> .....	31
	概要 .....	31
	OVO 7.21 から 7.5 への並列移行 .....	33
	古い管理サーバーで実行するステップ .....	33
	新しい管理サーバーに切り替えるエージェントの準備 .....	33
	ユーザー アカウントの移行について .....	36
	古い管理サーバーからの設定データのダウンロード .....	37
	OVO ユーザー ロールのダウンロード .....	40
	OVO Reporter の設定のダウンロード .....	41
	並列移行ツールのコピー .....	42
	新しい OVO 管理サーバーへの OVO 7.5 のインストール .....	42
	新しい OVO 管理サーバーの設定 .....	43
	OVO 7.21 管理サーバーから MS クラスタへの移行 .....	58
	クラスタへの OVO 7.5 のインストール .....	58

	OVO クラスタの設定.....	59
	OVO 7.5 管理サーバーから MS クラスタへの移行.....	73
	クラスタへの OVO 7.5 のインストール.....	73
	OVO クラスタの設定.....	74
<b>第 4 章</b>	<b>コア SPI およびその他の製品の統合</b> .....	<b>85</b>
	コア SPI の移行.....	85
	Windows OS SPI.....	85
	UNIX OS SPI.....	87
	Web サーバー SPI.....	88
	Reporter の統合.....	89
	NDAOM のアップグレード.....	90
	NNMA.....	91
	SAP 用の SPI.....	91
<b>第 5 章</b>	<b>OVO 7.0 からのアップグレード</b> .....	<b>93</b>
	アップグレード プロセス.....	93
<b>第 6 章</b>	<b>Windows 2000 Server から Windows Server 2003 への 管理サーバーのアップグレード</b> .....	<b>101</b>
<b>索引</b>	.....	<b>105</b>



# はじめに

## このマニュアルについて

このマニュアルは、OpenView Operations for Windows バージョン 7.21、7.20、7.10、または 7.0 からバージョン 7.5 へのアップグレードを行う 既存のユーザーを対象としています。

- 第1章 - 「はじめに」は、アップグレード ガイドの対象範囲を示します。また、現在のインストールと実行するアップグレードの種類に基づいてアップグレードを計画するときに役立つ、アップグレード計画チェックリストを示します。このチェックリストは、各環境で行うアップグレードの種類別に、実行するプロセスの概要と参照文献を紹介します。
- 第2章 - 「[OVO 7.5 への置換アップグレード](#)」は、Windows 2003 環境で OVO 7.10、7.20、7.21 から OVO 7.5 に置換アップグレードする方法について説明します。
- 第3章 - 「[OVO 7.5 への並列移行](#)」は、次の操作について説明します。
  - OVO 7.21 から OVO 7.5 への並列移行
  - OVO 7.21 管理サーバーから MS クラスタへの移行
  - OVO 7.5 管理サーバーから MS クラスタへの移行

- 第4章 - 「[コア SPI およびその他の製品の統合](#)」は、コア SPI の置換アップグレードと並列移行、および Reporter、NDAOM、NNM アダプタの統合に関する情報を提供します。
- 第5章 - 「[OVO 7.0 からのアップグレード](#)」は、7.5 へのアップグレード前に必要な、7.21 へのアップロード手順について説明します。
- 第6章 - 「[Windows 2000 Server から Windows Server 2003 への管理サーバーのアップグレード](#)」は、Windows 2000 から Windows 2003 へのアップグレード手順について説明します。



6.x のアップロード要件およびアップロード手順については、スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリに保存されている OVOW\_6.x\_Upgrade.pdf ファイルを参照してください。

## 参照文献

HP OpenView Operations for Windows に関する追加の情報は、インストールメディアから参照できます。また、OVO の各コンポーネントは、製品の機能や使用方法について説明する、ヘルプシステムを提供しています。

OVO 7.5 のインストールに関する詳細な情報は、『HP OpenView Operations for Windows インストールガイド バージョン 7.5』に記載されています。このマニュアルは、製品 CD の \Documentation ディレクトリや、管理サーバーの <%OvInstallDir%>\NLS\1041\Manuals\ ディレクトリに保存されています。

## アップグレード計画チェックリスト

次の表は、アップグレード プロセスの概要を示しています。これは、アップグレードの計画に役立ちます。たとえば、OVO for Windows と同じシステムに別の製品がインストールされている場合は、その製品のアップグレードについても調整が必要になる場合があります。

- ▶ アップグレードを開始する前に、必ずシステムのバックアップを行ってください。システムのバックアップと復元の方法については、スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリに保存されている Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。
- ▶ OVO のアップグレード時は、レポートに関連する問題を減らすために、管理サーバーにインストールされている SPI も同時にアップグレードすることをお勧めします。

### 置換アップグレードと並列移行の違い

置換アップグレードは、既存の OVO 7.x から 7.5 への標準的なアップグレード方法であり、OVO のインストール手順を実行することで、自動的に行われます。ただし、OVO 7.0 以前の製品からの直接置換アップグレードはサポートされていません。

並列移行は、ハードウェアを交換する場合、または、たとえばテスト環境から稼働環境に OVO を移動する場合に便利です。この変更には、システム名の変更や、Windows ドメイン メンバーシップの変更も含まれます。

並列移行では、同時に 2 つのサーバーを実行することもできます。元のサーバーのデータを保存 (バックアップ) して、次のいずれかの方法で新しいサーバーを作成できます。

- 新しいサーバーに、元のサーバーと同じドメイン、ホスト名、および IP アドレスを使用します。元のサーバーと新しいサーバーを同時に同じネットワークに接続することはできません。元の管理サーバーをシャットダウンして新しい管理サーバーで置き換える必要があるため、少しの間、管理サーバーを使用できなくなります。

- 新しいサーバーに、元のサーバーとは異なるホスト名と IP アドレスを使用します。両方の管理サーバーは共存できます。この場合、すべてのエージェントを置き換える前に新しいサーバーをテストし、エージェントを 1 つずつ置き換えることができます。



OVO 7.x から、7.5 のリリースで新たにサポートされるようになった 7.5 クラスタインストールへの並列移行は実行できません。クラスタ化されていない OVO 7.x インストールから、クラスタ化された OVO 7.5 へのアップグレードは、置換アップグレードで行ってください。

表 1 アップグレードの目的：まず 7.5 の機能を使用し、後から SPI を更新する

現在のインストール：Windows 2003 または 2000 上の OVO サーバー バージョン 7.20 または 7.21

サーバーにインストールされている製品	アップグレード プロセス	参照文献
その他の OV 製品なし	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 OVO データベースをバックアップします。</li> <li>2 SPI データ ( カスタマイズしたポリシーなど ) を保存します。</li> <li>3 置換または並列のいずれかの方法でサーバーを更新します。</li> <li>4 新規および更新 SPI CD を使用して、SPI をアップグレードします。この時点で SPI をアップグレードすることをお勧めしますが、ここで行わない場合は、基本部分のアップグレードの完了後、任意の時点でこの手順を実行できます。</li> <li>5 カスタマイズしたポリシー データ ( リセットしきい値など ) を復元します。</li> <li>6 このリリース向けにパッチが用意されている場合は、それをインストールして、エージェントをアップグレードします。</li> <li>7 ポリシー、パッケージ、インストールメンテーションを管理ノードに配布し直します。</li> </ol> <p>注意：OVO 7.5 へのアップグレード時に、エージェントは管理サーバーから削除されます。次に、バージョン 7.29 の新しいエージェントがインストールされます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OVO Readme</li> <li>• 新規および更新 SPI の CD 1 にある Documentation ディレクトリ内の SPI インストールガイド、リリース ノート、または Readme</li> <li>• OVO アップグレードガイド</li> <li>• OVO スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリ内の Backup/Restore.pdf ファイル</li> <li>• <a href="http://openview.hp.com/support">http://openview.hp.com/support</a></li> </ul>

表 1 アップグレードの目的：まず 7.5 の機能を使用し、後から SPI を更新する

現在のインストール：Windows 2003 または 2000 上の OVO サーバー バージョン 7.20 または 7.21

サーバーにインストールされている製品	アップグレード プロセス	参照文献
OV Reporter 3.5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 OVO と Reporter のデータベースをバックアップします。</li> <li>2 Reporter および OVO 内のコア SPI と製品 SPI のデータを保存します。</li> <li>3 Reporter 3.5 をアンインストールします。</li> <li>4 OVO サーバーをアップグレードします。</li> <li>5 Reporter 3.6 をインストールし、Reporter のカスタマイズ設定を復元します。</li> <li>6 必要に応じてパッチをインストールします。</li> <li>7 SPI データを復元します。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前項と同じドキュメント</li> <li>• OV Reporter 3.6 のドキュメント、および OV Reporter 3.6 製品</li> <li>• パッチは <a href="http://openview.hp.com/support">http://openview.hp.com/support</a> から入手。</li> </ul>
NNM 6.2/ 6.4/ 7.0/ 7.1 for Windows	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 OVO と NNM をバックアップします。</li> <li>2 NNM アダプタをアンインストールします。</li> <li>3 NNM 7.5 移行ガイドの説明に従って、NNM を NNM 7.5 にアップグレードします。</li> <li>4 OVO をアップグレードします。</li> <li>5 NNM アダプタを再インストールします。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「その他の OV 製品なし」と同じドキュメント</li> <li>• NNM 7.5 移行ガイド</li> <li>• OVO スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリ内の Backup/Restore.pdf ファイル</li> </ul>

表 1 アップグレードの目的：まず 7.5 の機能を使用し、後から SPI を更新する

現在のインストール：Windows 2003 または 2000 上の OVO サーバー バージョン 7.20 または 7.21

サーバーにインストールされている製品	アップグレード プロセス	参照文献
NNM 7.5 for Windows	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 OVO と NNM をバックアップします。</li> <li>2 NNM アダプタをアンインストールします。</li> <li>3 OVO をアップグレードします。</li> <li>4 NNM アダプタを再インストールします。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「その他の OV 製品なし」と同じドキュメント</li> <li>• Network Node Manager のドキュメントとパッチ</li> </ul>
NNM アダプタ (リモート使用される NNM)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 NNM アダプタの現在のバージョンをアンインストールします。</li> <li>2 古いバージョンを使用している場合は、NNM サーバーを 7.1 または 7.5 にアップグレードします。</li> <li>3 OVO をアップグレードします。</li> <li>4 NNM アダプタの新しいバージョンをインストールします。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Network Node Manager 7.1/7.5 移行ガイド</li> <li>• 「その他の OV 製品なし」と同じドキュメント</li> </ul>
Network Diagnosis Add-On Module (NDAOM)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NDAOM と Problem Diagnosis の現在のバージョンをアンインストールします。</li> <li>• NDAOM の新しいバージョンをインストールします。</li> </ul>	90 ページの「 <a href="#">NDAOM のアップグレード</a> 」を参照してください。
OVPM 4 for Windows	標準の方法で OVO をアップグレードします。特別な手順は必要ありません。	
OVPM 5 for Windows	標準の方法で OVO をアップグレードします。特別な手順は必要ありません。	
OVIS 6.0	標準の方法で OVO をアップグレードします。特別な手順は必要ありません。	

表 2 アップグレードの目的 : MS クラスタ サービスへの移行

現在のインストール : Windows 2003 上の OVO サーバー バージョン 7.2x		
現在のインストール	アップグレード プロセスの概要	参照文献
<p>OVO のバージョン : 7.21</p> <p>注意 : 7.10 または 7.2x を 7.5 のクラスタ サービスに直接アップグレードすることはできません。クラスタ サービスを使用するには、並列移行を行う必要があります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 OVO データベースをバックアップします。</li> <li>2 パッチ OVOW_00075 をダウンロードし、OVOW 7.21 システムにインストールします。</li> <li>3 新しい管理サーバーへのエージェントの切り替えを準備します。</li> <li>4 ユーザー アカウントの移行計画を準備します。</li> <li>5 設定データをダウンロードして、OVO と SPI のデータを保存します (完全バージョンの OV Reporter がインストールされていない場合も、Reporter のデータをダウンロードしてください)。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スタートアップ CD の \Documentation ディレクトリ内の OVO 7.5 インストールガイド、リリースノート</li> <li>• パッチは <a href="http://openview.hp.com/support">http://openview.hp.com/support</a> から入手。</li> <li>• アップグレード後のクラスタへの移行については、次の各項を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>— OVO 7.5 への置換アップグレード</li> <li>— OVO 7.5 への並列移行</li> <li>— OVO クラスタの設定</li> </ul> </li> <li>• 新規および更新 SPI の CD 1 にある \Documentation ディレクトリ内の SPI インストールガイド、リリースノート、または Readme</li> <li>• スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリ内の Backup/Restore.pdf ファイル</li> </ul>



表 2 アップグレードの目的 : MS クラスタ サービスへの移行

現在のインストール : Windows 2003 上の OVO サーバー バージョン 7.2x		
現在のインストール	アップグレード プロセスの概要	参照文献
OVO のバージョン : 7.21 ( 続き )	<p><b>OVO 7.5 のインストール先となる、MS クラスタ サービスを持つ新しいサーバーでの操作</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 OVO 7.5 スタートアップ CD からツールをコピーします。</li> <li>2 新しいサーバーへの OVO コア SPI の自動インストールを回避するために、バッチ ファイル SBSM.bat を呼び出してレジストリ キーを作成します。 <b>警告</b> : OVO 7.5 インストーラによるコア SPI のインストールを回避しなかった場合、移行は失敗します。SBSM.bat を呼び出すと、特別なレジストリ キーが作成され、コア SPI のインストールが回避されます。32 ページ、および 42 ページの「<a href="#">新しい OVO 管理サーバーへの OVO 7.5 のインストール</a>」も参照してください。</li> <li>3 OVO 7.5 コンソール / サーバーをインストールします。</li> <li>4 エージェント アップグレード パッチなどのアップグレード パッチをインストールします。</li> </ol> <p>新規および更新 SPI の CD からは、まだ SPI をインストールしないでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 Windows ユーザー アカウントを再作成します。</li> </ol>	

表 2 アップグレードの目的 : MS クラスタ サービスへの移行

現在のインストール : Windows 2003 上の OVO サーバー バージョン 7.2x		
現在のインストール	アップグレード プロセスの概要	参照文献
OVO のバージョン : 7.21 ( 続き )	<b>新しい 7.5 サーバーへのデータの移行</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新しいサーバーに設定データをアップロードします (Reporter のデータもアップロードします)。</li> <li>2 エージェントを新しいサーバーに切り替えます。</li> <li>3 ポリシー、パッケージ、インストールメンテーションを管理ノードに配布し直します。</li> </ol>	
OVO のバージョン : 7.21 ( 続き )	<b>古いサーバーで使用していた SPI のインストールとアップグレード</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 OpenView Operations 7.5 for Windows 2005 年 4 月リリース用の新規および更新 SPI の CD を使用して、製品の SPI をインストールします。この CD は、コア (Windows、UNIX OS、および WebServer) の SPI も自動的にインストールします。</li> <li>2 カスタマイズした設定を復元します。</li> <li>3 ポリシー、パッケージ、インストールメンテーションを管理ノードに配布し直します。</li> </ol>	
OVO 7.10	OVO 7.21 での手順と同様。ただし、パッチ OVOW_00075 をインストールする前に OVOW_00050 をインストールします。	前項と同様。 「OVO 7.10、7.20、または 7.21 からのアップグレード」を参照してください。
OVO 7.0	OVO 7.21 にアップグレードしてから OVO 7.5 にアップグレードします。	「OVO 7.0 からのアップグレード」を参照してください。

**表 3      アップグレードの目的 : OVO 7.5 サーバーに接続する OVO リモート コンソールの有効化**

現在のインストール : Windows 2003、XP、または 2000 上の OVO リモート コンソール バージョン 7.20 または 7.21		
サーバーに インストール されている製品	アップグレード プロセス	参照文献
その他の OV 製品 なし	OVO 7.5 インストーラを使用して、OVO リモート コンソールをアップグレードします。特別な準備は必要ありません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OVO Readme</li> <li>• OVO アップグレードガイド</li> <li>• スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリ内の Backup/Restore.pdf ファイル</li> </ul>

**表 4      追跡が必要な情報**

チェックマーク	リスト
	管理サーバーがインストールされている OVO のバージョン
	OVO データベースのバックアップ。OVO スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリ内の Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。
	インストールした SPI のバージョン
	更新を予定している SPI の更新後のバージョン
	インストールされているポリシーのバージョン
	カスタマイズしたポリシーの場所
	管理するノードのリスト

**表 4** 追跡が必要な情報

	OVO のドキュメント (Readme およびアップグレード ガイド)
	コア SPI および製品 SPI のドキュメント、2005.1 リリース用の新規および更新 SPI の CD。サーバーのアップグレード後、直ちに SPI をアップグレードしない場合でも、SPI のドキュメントを参照する必要があります。
	サーバー、エージェント、または SPI 用のパッチ ( <a href="http://openview.hp.com/support">http://openview.hp.com/support</a> )
	SQL サーバー サービスまたは MSDE を使用している場合は、そのバージョン
	OVO データベース用の SQL サーバーへのパスワード

## OVO 7.5 への置換アップグレード

次に、バージョン 7.10、7.20、7.21 の OV Operations for Windows インストールを置換アップグレードする方法について説明します。先に進む前に、次の操作を行ってください。

- ハードウェアとソフトウェアの要件をチェックします。OVO 7.5 の管理サーバーとコンソールに関するハードウェアとソフトウェアの要件については、『HP OpenView Operations for Windows インストールガイド バージョン 7.5』を参照してください。
- データをバックアップします。後で必要になった場合に復元できるように、使用しているシステムのデータをバックアップしてください。OVO スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリ内の Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。

## OVO 7.10、7.20、または 7.21 からのアップグレード

- ▶ OVO 7.10、7.20、および 7.21 から OVO 7.5 へのアップグレード プロセスは共通しています。ただし、7.10 からのアップグレードに限り、23 ページの「[MSDE データベースのアップグレード](#)」というタスクが必要です。7.20 または 7.21 からのアップグレードでは、「MSDE データベースのアップグレード」を実行しないでください。

### タスク 1: SPI の準備

SPI (Smart Plug-in) の設定データの保存方法、SPI のアップグレード方法については、SPI 製品 CD 1 の Documentation ディレクトリから適切な SPI ドキュメントを参照してください。

- Active Directory Config.pdf
- Exchange Config.pdf
- EnterpriseServers ReleaseNotes.html
- SAP Config.pdf
- WebLogic AppServer Config.pdf
- WebSphere AppServer Config.pdf
- Databases Config.pdf、第 2 章
- OVO オンライン ヘルプ「Network Diagnosis Add-On Module」の「Installing NDAOM on managed nodes」

### タスク 2: Network Node Manager アダプタの削除

OVO 管理サーバーをアップグレードする前に、NNM アダプタをアンインストールする必要があります。オンライン ヘルプの「NNM Adapter」→「NNM Adapter のインストール」→「NNM Adapter の削除」を参照してください。

NNM アダプタは、OVO 管理サーバー、および NNM サーバー上の OVO エージェントをアップグレードした後で再インストールできます。

### タスク 3: レポート データベースのバックアップ

万一の場合に備えて、アップグレードする前にレポート データベースをバックアップしてください。HP OpenView Reporter 製品を購入した場合、『Reporter コンセプト ガイド』の「拡張トピック」にある、データベースのバックアップに関する指示に従ってください。Reporter 製品をインストールしていない場合は、OVO オンライン ヘルプ項目の「環境の管理」→「データベースの保守」→「データベースのバックアップ」の「レポート コンポーネント データベースのバックアップと復元」に記載されている指示に従ってください。

リモート コンソールを含む、開いているすべての MMC または Web コンソールを終了します。すべての MMC プロセスが稼動していないことを確認します。ovpmad が稼動している場合は終了します。

### タスク 4: サービス マップのダウンロード

一時フォルダから、たとえば、C:\TEMP\ovpmutil cfg svc dnl <filename> のようにコマンドを実行し、現在のサービス マップをダウンロードします。この <filename> は、サービス マップのダウンロード先となるファイルの名前です。

サービス マップをダウンロードしない場合、SPI サービス タイプに基づくすべてのサービスの再検出が必要となり、SPI サービス タイプに基づくカスタム (ユーザー作成の) サービスは削除されます。

### タスク 5: MSDE データベースのアップグレード

Microsoft SQL Server 2000 Desktop Edition (MSDE) を Service Pack 3 またはそれ以上にアップグレードする必要があります。これは、インストールのウィルス対策を向上させるために、Microsoft によって推奨されています。また、これは Windows 2003 サポートの前提条件でもあります。

1 現在インストールされている MSDE のバージョンを確認します。

- **[スタート]** → **[検索]** → **[ファイルやフォルダ]** を選択し、OSQL.EXE ファイルが保存されているディレクトリを探します。
- 次に、**[コマンド プロンプト]** ウィンドウを開いて、ステップ 1 で探したディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。  
`osql -E -S.\OVOPS -Q "select @@version"`


- 実行結果の出力から、インストールされている MSDE のバージョンを調べます。現在実行している MSDE のバージョンは、次の番号によって表されます。
    - 8.00.194 = RTM (製造者へのリリース、初期リリース)
    - 8.00.384 = SP1
    - 8.00.543 = SP2
    - 8.00.760 = SP3
    - 8.00.2039 = SP4
  - インストールされているバージョンの番号が 8.00.760 より小さい場合は、ステップ 2 に進みます。それ以外の場合は、タスク 6「[OVO のアップグレードの開始](#)」に進んでください。
- 2 統合型の Reporter Lite ではなく、完全バージョンの OV Reporter を使用している場合は、Reporter MSDE インスタンスのデータソース名を `.\OVOPS` から `<hostname>\OVOPS` に変更します。この `<hostname>` は Reporter システムを表します。この名前は、`hostname` コマンドを実行して調べることができます。
- 次に、**[スタート]** → **[設定]** → **[コントロールパネル]** → **[管理ツール]** → **[データソース (ODBC)]** を選択し、[ODBC データソースアドミニストレータ] ダイアログを表示します。**[システム DSN]** タブを選択し、ダイアログ内のシステム データソースの下に表示される **[Reporter]** を選択して強調表示させます。次に、**[構成]** ボタンをクリックします。
  - [サーバー] フィールドの `.\OVOPS` を `<hostname>\OVOPS` に変更します。
  - **[次へ]** をクリックし、ログイン ID とパスワードが正しいことを確認します。パスワードを設定した場合には、そのパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックします。
  - デフォルト データベースが Reporter に設定されていることを確認し、**[次へ]** をクリックします。
  - 最後に **[データソースのテスト]** オプションを使用して設定を確認します。
- 3 MSDE のアップグレード用に、Microsoft の Web ページからサービスパック 3 または 4 をダウンロードします。サービスパック 3 の場合は <http://www.microsoft.com/sql/downloads/2000/sp3.asp> (このページには、SQL Server 2000 SP3 と MSDE 2000 SP3 の両方が用意されています)、サービスパック 4 の場合は <http://www.microsoft.com/sql/downloads/2000/sp4.msp> (このページには、SQL Server 2000 SP4 と MSDE 2000 SP4 の両方が用意されています) からダウンロードしてください。



- 4 サーバーでファイルを展開し、ソフトウェアをアップグレードします。完了したら、**[コマンド プロンプト]** ウィンドウで `<installdir>\MSDE` (たとえば、`\sql2ksp3\MSDE`) ディレクトリに移動し、`vpstat -3 -r stop` コマンドを実行します。次に、`setup.exe /upgradesp SQLRUN INSTANCENAME=OVOPS /1*v <filename>` コマンドを実行します。`/1*v <filename>` オプションにより、ログ ファイルが作成されます。  
  
これにより、Microsoft SQL Server Desktop Engine のアップグレード プロセスが開始されます。インストールが完了したら、設定を続ける前にシステムを再起動する必要があります。  
  
メモ : サービス パック 4 にアップグレードすると、SQLAgent\$OVOPS サービスのスタートアップの種類が [自動] から [手動] に変更されます。この問題を修正するには、サーバーに再度ログオンして、[管理ツール] → [サービス] を起動します。サービス SQLAgent\$OVOPS に移動してスタートアップの種類を [自動] に変更し、サービス SQLAgent\$OVOPS を開始します。
- 5 ステップ 1 で説明した方法で、インストールされている MSDE のバージョンを確認してください。

#### タスク 6: OVO のアップグレードの開始

- 1 OVO 7.5 製品 CD を挿入します。
- 2 **[OK]** をクリックしてアップグレードを続けます。通常のインストール ウィンドウが表示されます。**[次へ]** をクリックしてアップグレードを続けます。
- 3 確認のため、データベースの `sa password` を入力します。入力しない限り、インストールを継続できません。
- 4 **[OK]** をクリックすると、アップグレードが完了します。

 アップグレード プロセスによって更新されるのは、コア SPI だけです。

#### タスク 7: Windows 管理ノードのエージェントのアップグレード

Windows 管理ノード上のエージェントは、手動またはコンソール経由でアップグレードできます。新しい Service 監視ノード (Windows のみ) と Process 監視ノード (Windows、UNIX、Linux) を利用するには、エージェントのバージョンを 7.29 以上にアップグレードする必要があります。

## コンソールからのエージェントのアップグレード

エージェント パッケージのみをアップグレードする方法は次のとおりです。

- 1 コンソール ツリーで、**配布パッケージ**のアイコンをクリックします。
- 2 エージェントをインストールするノードまたはノードグループに、**OpenView Operations Agent** 配布パッケージをドラッグします。

エージェント パッケージをアップグレードし、ポリシーを再配布する方法は次のとおりです。

- 1 再配布するノードを右クリックします。
- 2 **[すべてのタスク]** → **[すべてのポリシーとパッケージの再配布]** を選択します。

このコマンドは、選択した管理ノードにインストールされているパッケージ (エージェント) とポリシーを調べるため、インベントリを照会し、その後、最新バージョンのエージェントとポリシーを再配布します。

## 手動によるエージェントのアップグレード

この方法は、以前、手動でインストールしたエージェントをアップグレードする場合にのみ有効です。

OpenView Operations パッケージは、CD 2 の Windows フォルダに収録されています。管理サーバーをインストールすると、<%OvInstallDir%>\packages\Windows\Windows\_manual ディレクトリにパッケージが保存されます。

次の操作を行います。

- 1 OVO Agents CD から、**Windows\setup.exe** を実行します。
- 2 **[インストール先のフォルダ]** 画面で、デフォルトのインストール先フォルダを使用するか、エージェントのインストール先フォルダを選択します。



選択したインストール先は、今後、他の OpenView 製品のデフォルトフォルダとなります。一度設定すると、使用しているすべての OpenView 製品をアンインストールしない限り、変更することはできません。この OpenView 製品には、エージェントも含まれます。

デフォルトのインストール先フォルダは、次のとおりです。

<ProgramFilesFolder>\HP OpenView\

この <ProgramFilesFolder> は、インストール先マシンで、デフォルトのプログラム ファイルの親フォルダとなります。

3 **[ エージェントの設定 ]** 画面で、エージェントの管理サーバーのホスト名と、エージェント サービスが使用するアカウント名を設定します。

- **[ 管理サーバーホスト ]** テキスト ボックスで、このノードを管理する管理サーバーの完全修飾名 (たとえば、potato.veg.com) を入力します。
- **[ エージェント サービスの実行 ]** ラジオ グループで、**[HP ITO Account]** または **[LocalSystem]** を選択します。

旧バージョンでは、ノードに 2 つのローカル ユーザー アカウント (HP ITO Account および opc\_op アカウント) が作成され、ランダムなパスワードが生成されました。OVO 7.20 以降では、HP-ITO Account と opc\_op アカウントはノードには作成されません。その代わりに LocalSystem アカウントがデフォルトで使用されます。

旧バージョンで使用していた HP ITO Account をアップグレードする場合は、このアカウントを旧バージョンの状態で使用できます。アップグレード後も、ノード上のユーザーはそのまま維持されます。HP ITO Account と LocalSystem アカウントの詳細については、『HP OpenView Operations for Windows インストール ガイド バージョン 7.21』を参照してください。

エージェントのインストール後、Modify モードを呼び出して、管理サーバー ホスト名やエージェント サービス アカウントを変更できます。

4 **[ インストール ]** をクリックします。インストールが開始されます。

5 インストール ログ ファイルを開き、インストール完了時の状態を確認します。ログ ファイルは、<TempFolder> に保存されます。この <TempFolder> は、インストール先マシンの一時フォルダの名前です (通常は C:\Documents and Settings\\Local Settings\Temp)。

ログ ファイルは、次のファイル名ルールに従って、インストールのたびに作成されます。

- AgentInstallResults.txt - 新規、変更、修復インストール
- AgentUnInstallResults.txt - アンインストール
- AgentUpgradeResults.txt - アップグレード インストール

新しいログ ファイルの作成前に、ファイル名に番号を追加して、従来のログ ファイルが保存されます。

- 6 管理サーバーのコンソール ツリーで、ノードを右クリックし、[ **すべてのタスク** ] → [ **パッケージの同期** ] を選択します。これにより、エージェントのバージョンを反映して、パッケージ インベントリが更新されます。

## タスク 8: UNIX 管理ノードのエージェントのアップグレード

OVO for Windows 7.5 では、UNIX エージェントのインストールとアップグレードは手動で行います。実行手順については、各エージェント パッケージに付属する、該当エージェントの Readme.txt を参照してください。

- ▶ また、OVO オンライン ヘルプの「環境の管理」→「ポリシーの管理と配布」→「配布関連のタスク」の「Windows エージェントの手動インストール」および「UNIX コンピュータへのエージェントのインストール」も参照してください。

これらのエージェント パッケージは、\%OvShareDir%\packages\  
<supported operating system> ディレクトリ内の管理サーバー、または  
Agent CD に用意されています。

次の操作を行います。

- 1 適切な管理者権限を持つユーザーとしてログインしていることを確認します。
- 2 管理サーバーが、すべてのハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認します。満たしていない場合は、適合するようにノードを更新します。ハードウェアとソフトウェアの要件については、『HP OpenView Operations for Windows インストールガイド バージョン 7.5』を参照してください。
- 3 OpenView Operations 管理サーバーのファイル opc\_pkg.Z、comm\_pkg.Z、perf\_pkg.Z、svcdisc\_pkg.Z、および opc\_inst を、管理するコンピュータの /tmp ディレクトリにコピーします。これらのファイルは、CD 3 の <supported operating system>/<supported version>/ ディレクトリ、または、管理サーバーの <installation directory>/packages/<supported operating system>/<supported version>/ ディレクトリに保存されています。  
  
ftp を使用してファイルをコピーする場合は、バイナリ モードを使用してください。
- 4 次のコマンドを実行して、実行可能なスクリプトを作成します。  
**chmod +x /tmp/ opc\_inst**


- 5 `/tmp/opc_inst` コマンドを使用して、エージェントをインストールします。
- 6 `/opt/OV/bin/OpC/install/ opcactivate -s <OVOW_mgt_server> -cs <server_codeset> -cn <agent_codeset> -sv` コマンドを実行して、エージェントを起動します。

英語のシステムでは、サーバーとエージェントの文字コード セットは `utf8` です。OVO for Windows 管理サーバーへのレポート対象となる、英語システム以外のノードが存在する場合は、使用可能な文字コード セットをオンラインヘルプで確認してください。

- 7 管理サーバーのコンソール ツリ ーで、ノード を右クリックし、**[すべてのタスク]** → **[パッケージの同期]** を選択します。これにより、エージェント のバージョンを反映して、パッケージ インベントリ が更新されます。
- 8 UNIX ノードに配布されているポリシーを記録します。
- 9 UNIX 管理ノードから古いエージェントをアンインストールします。
- 10 新しいエージェントをインストールしたら、古いエージェントによって UNIX ノードに配布されたポリシーを手動で配布します。

### タスク 9: NNM アダプタの再インストール

コンソールの **[スタート]** メニューから、NNM Adapter 7.5 を再インストールします。実行手順については、HP OVO のオンライン ヘルプを参照してください。

-  NNM アダプタのインストールを行う前に、NNM サーバー上の OVO エージェントのアップグレードを完了しておく必要があります。



# OVO 7.5 への並列移行

## 概要

この章では、次の操作の実行方法について詳しく説明します。

- Windows 管理サーバーの「[OVO 7.21 から 7.5 への並列移行](#)」の実行方法。
- Windows 管理サーバーの OVO 7.21 および OVO 7.5 を、クラスタ化された管理サーバー インストールへの移行方法。「[OVO 7.21 管理サーバーから MS クラスタへの移行](#)」および「[OVO 7.5 管理サーバーから MS クラスタへの移行](#)」を実行します。

OVO の設定データは、すべて 1 つのフォルダに自動的に保存されます。このデータは、新しいサーバーに転送され、自動的にアップロードされます。OVO Reporter の設定データも、同様にダウンロードおよびアップロードされます。

OVO 設定データの移動のほかに、一部の移行手順を手動で行う必要があります。たとえば、古い OVO サーバーの OVO ユーザー グループ HP-OVE-ADMINS および HP-OVE-OPERATORS に割り当てられていた Windows ユーザーは、新しい OVO 管理サーバーの Windows ドメインに再作成し、対応するユーザー グループに追加する必要があります。



移行を確実に成功させるため、基本 SPI と、その他すべての SPI は、新しい OVO サーバーへの設定データの移行が完了するまで、新しい OVO サーバーにインストールされません。このため、ポリシーと設定データの移行は簡略化されます。

基本 SPI が新しい OVO サーバーにインストールされないようにするには、OVO 7.5 のインストールを開始する前にバッチ ファイルを呼び出して、新しい OVO 7.5 のマシンにレジストリ キーを作成します。

このレジストリ キーの名前は、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Hewlett-Packard\CoreSPIMigration です。42 ページの「[新しい OVO 管理サーバーへの OVO 7.5 のインストール](#)」を参照してください。



## OVO 7.21 から 7.5 への並列移行

並列移行では、OVO 7.21 管理サーバーと、そのすべての設定は、別のハードウェアにインストールされた OVO 7.5 に移行されます。



OVO 7.20 から OVO 7.5 へのアップグレードを行う場合は、事前にパッチ OVOW\_00075 をインストールします。OVO 7.10 からのアップグレードでは、パッチ OVOW\_00075 の前にパッチ OVOW\_00050 をインストールします。

パッチをインストールする前に、システムをバックアップしてください。システムのバックアップと復元の方法については、スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリに保存されている Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。

### 古い管理サーバーで実行するステップ

#### 新しい管理サーバーに切り替えるエージェントの準備

エージェントをリモートに新しいサーバーに切り替えるには、次の**いずれか**が必要です。

- 正常に機能している古い管理サーバー。この場合、新しいサーバーへの切り替えを、古いサーバーによって開始できます。

または

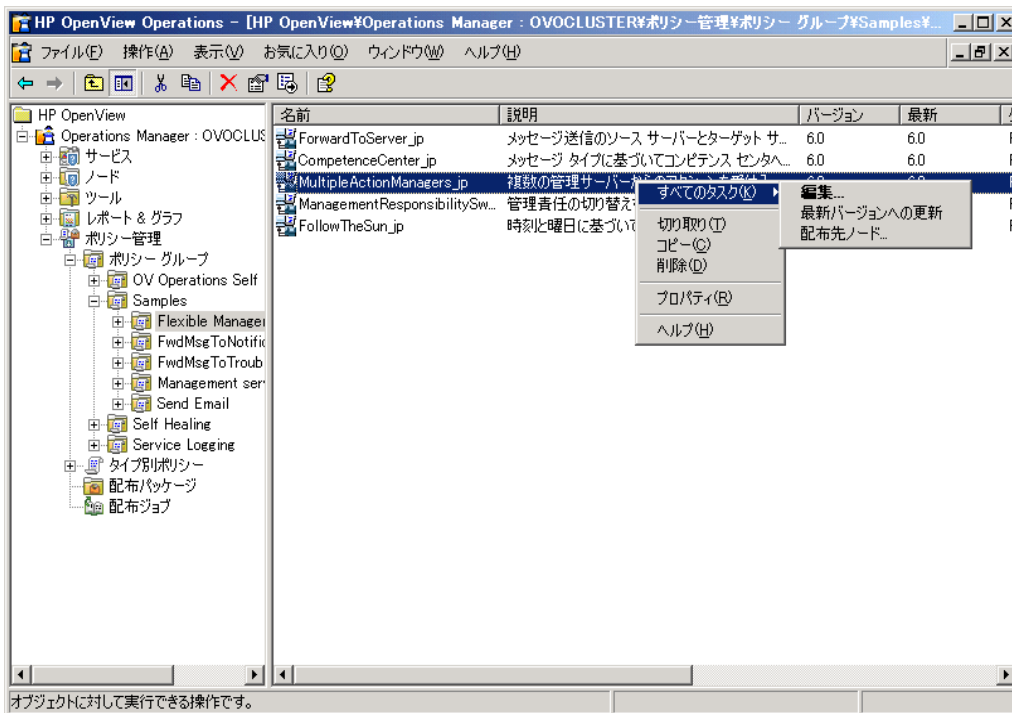
- 各ノードの**フレキシブル**管理ポリシー。これは、新旧両方のOVOサーバーを ACTIONALLOWEDMANAGER に設定します。ポリシーの配布は古い管理サーバーのみに許可されるため、この柔軟な管理ポリシーは、古い管理サーバーを使用して配布しておく必要があります。管理システムに柔軟な管理ポリシーが配布されていれば、新規サーバーへの切り替えは、新旧どちらのサーバーからも開始できます。

または

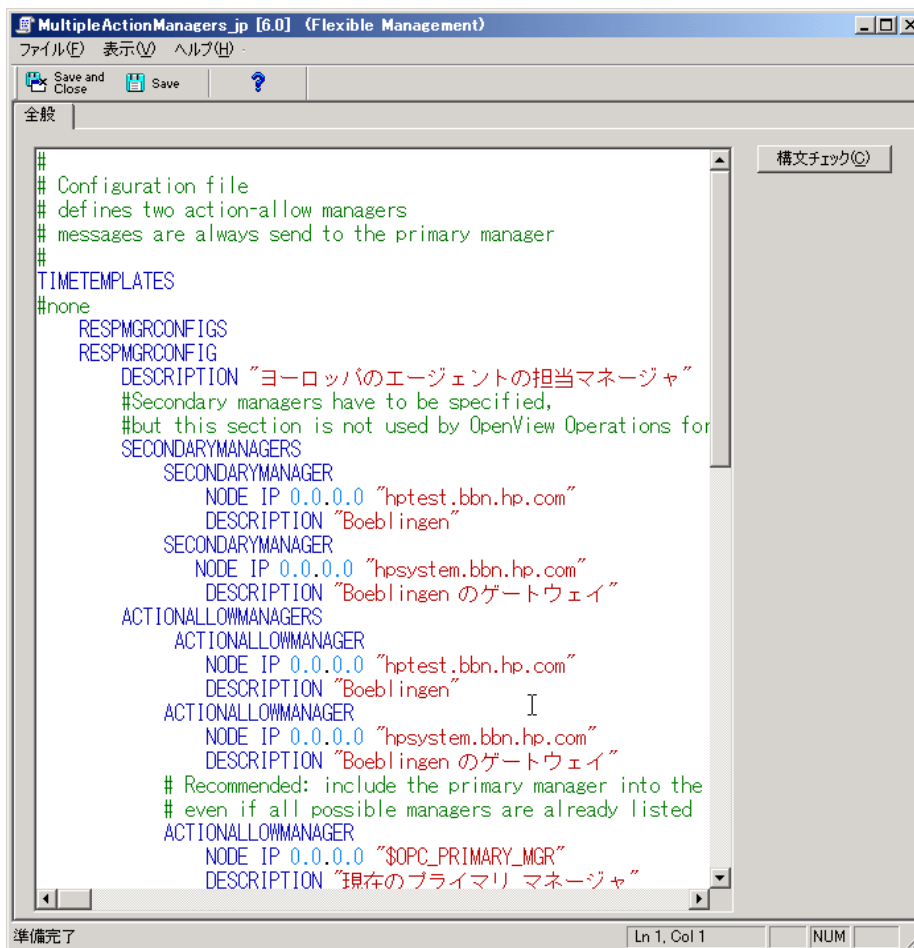
- すべてのエージェントの、ローカルでの手動切り替え。

古いサーバーを使用できなくなっても、エージェントを確実に新しい OVO クラスタ管理サーバーに切り替えられるように、柔軟なポリシーを作成し、すべての管理ノードに配布することをお勧めします。

**1 Samples\Flexible Management ポリシー グループを探し、  
MultipleActionManagers ポリシーを編集します。**



- コメントとして記されている説明に従って、柔軟な管理ポリシーの構文を修正します。hptest.bbn.hp.com という文字列を古いサーバーの名前に置き換え、hpsystem.bbn.hp.com という文字列を新しい管理サーバーの名前に置き換えます。ここには、完全修飾ドメイン名を指定することをお勧めします。DNS に名前を解決させるため、IP アドレスは 0.0.0.0 のまま残します。次に、説明 ([DESCRIPTION]) フィールドを編集します。



```
#
# Configuration file
# defines two action-allow managers
# messages are always send to the primary manager
#
TIMETEMPLATES
#none
RESPMGRCONFIGS
RESPMGRCONFIG
DESCRIPTION "ヨーロッパのエージェントの担当マネージャ"
#Secondary managers have to be specified,
#but this section is not used by OpenView Operations for
SECONDARYMANAGERS
SECONDARYMANAGER
NODE IP 0.0.0.0 "hptest.bbn.hp.com"
DESCRIPTION "Boeblingen"
SECONDARYMANAGER
NODE IP 0.0.0.0 "hpsystem.bbn.hp.com"
DESCRIPTION "Boeblingen のゲートウェイ"
ACTIONALLOWMANAGERS
ACTIONALLOWMANAGER
NODE IP 0.0.0.0 "hptest.bbn.hp.com"
DESCRIPTION "Boeblingen"
ACTIONALLOWMANAGER
NODE IP 0.0.0.0 "hpsystem.bbn.hp.com"
DESCRIPTION "Boeblingen のゲートウェイ"
# Recommended: include the primary manager into the
# even if all possible managers are already listed
ACTIONALLOWMANAGER
NODE IP 0.0.0.0 "$OPC_PRIMARY_MGR"
DESCRIPTION "現在のプライマリ マネージャ"
```

- 修正したポリシーを保存し、すべての管理対象システムに配布します。

## ユーザー アカウントの移行について

OVO Windows のユーザー アカウントの移行では、3 つのケースが考えられます。最初のケースが残る 2 つと重複するため、実際の設定には、いくつかのケースが該当する可能性があります。

- 1 OVO Windows の一部のユーザー アカウントは、古い管理サーバーのローカル ユーザーです。
- 2 新しい管理サーバーは、古い管理サーバーのユーザー グループを使用し続けます。古い管理サーバーがすでにドメイン グループを使用していれば、新しい管理サーバーは、OVO 管理者およびオペレータ用に、同じドメインおよびドメイン ユーザー グループを使用することができます。
- 3 新しい管理サーバーは、古い管理サーバーのユーザー グループを再利用しません。古いグループがローカル グループである、または別ドメインのドメイン グループである場合は、常にこのようになります。ただし、新しい管理サーバー用のドメインに新しいユーザー グループを作成することは可能です。

**ケース 1** - ローカル ユーザー アカウントを、別の Windows インストールに移行することはできません。ローカル アカウントごとに、新しい Windows アカウントを作成する必要があります。次に、このアカウントをオペレータまたは管理者のグループに割り当てます。

新しいアカウントは、ドメイン アカウント、または新しい管理サーバーのローカル アカウントのいずれかです。新しい管理サーバーをクラスタで実行する場合は、OVO Windows のユーザー グループはドメイン グループでなければならないため、新しいアカウントはドメイン アカウントである必要があります。

**ケース 2** - この場合、特別な操作は必要ありません。インストール時に同じグループとユーザーを指定した場合、新しい OVO 管理サーバーは、既存の Windows ドメイン ユーザー グループとユーザーを使用します。

OVO の内部ユーザー ロールと権限の定義は、OVO の設定ダウンロードおよびアップロード ツールを使用して移行されます。

**ケース 3** - ローカル グループを別の Windows インストールに移行できないため、すべてのユーザーを新しいグループに移行する必要があります。新しいグループは、新しい管理サーバーのローカル グループであるか、またはドメイン グループです。クラスタ化された OVO Windows では、新しいグループはドメイン グループである必要があります。

## 古い管理サーバーからの設定データのダウンロード

古い管理サーバーから次の設定データをダウンロードする必要があります。

- ノード モデル
- サービス設定
- ツール
- ポリシーとポリシー グループ
- ポリシーとノードの割り当て
- ユーザー ロール
- メッセージと注釈
- ファイルシステム設定データ
  - カスタム インストールメンテーション
  - メッセージアクション サーバーの設定
  - カスタム レポート定義
- レジストリ設定

### 管理サーバーへの並列移行ツールのコピー

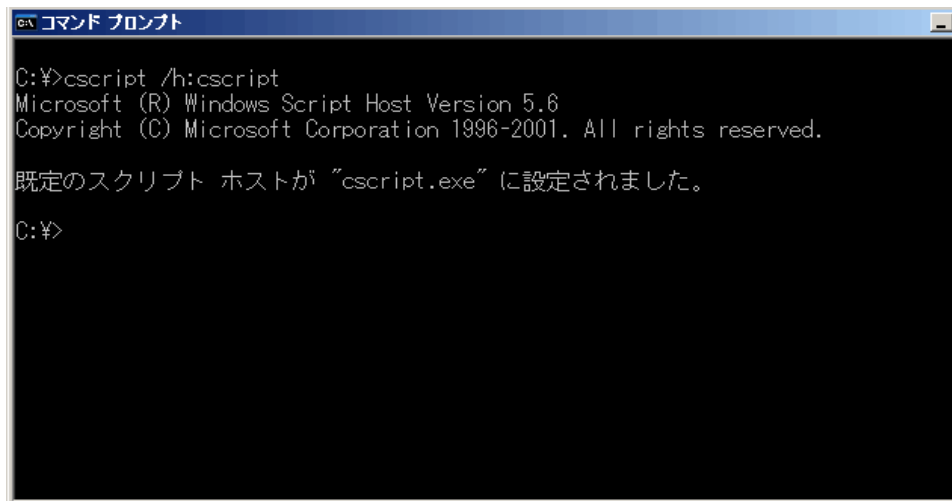
並列移行ツールは、OVO 7.5 インストール CD の最上位ディレクトリ「Side-by-side Migration」に格納されています。

このディレクトリの内容を、サブディレクトリも含めて、古い OVO 管理サーバーのローカル ディレクトリにコピーします。

## cscrip をデフォルト スクリプト ホストとして設定

デフォルトのスクリプト ホストを `cscrip.exe` に設定します。これにより、スクリプトは、進捗状況の表示にポップアップ メッセージ ボックス ウィンドウではなく、コンソール出力を使用するようになります。スクリプトは、状態や進捗に関する多数のメッセージを生成します。これを、ツール出力またはコンソール メッセージの注釈として表示できます。

コマンド プロンプトで `cscrip /h:cscrip` を実行して、`cscrip.exe` をサーバーのデフォルト スクリプト ホストにします。これにより、スクリプト ホストは、バッチ ジョブにより適したコンソール出力を使用するようになります。



```
コマンド プロンプト
C:\>cscrip /h:cscrip
Microsoft (R) Windows Script Host Version 5.6
Copyright (C) Microsoft Corporation 1996-2001. All rights reserved.

既定のスクリプト ホストが "cscrip.exe" に設定されました。
C:\>
```

## 移行ツール OVOW\_dnl\_conf.vbs

このツールは、設定データをダウンロードして、設定ディレクトリに格納します。

表 5 ツールのオプションとパラメータの説明

パラメータ	<エクスポート ディレクトリ>
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理サーバーの設定データを格納するディレクトリを指定します</li> <li>存在しない場合はディレクトリが作成されます</li> <li>ディスクドライブに十分な空き容量があることを確認してください</li> </ul>
オプション	[ ]
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>オプションが指定されていない場合、すべての設定データがダウンロードされます</li> <li>OVO の単一システムからクラスタへの移行は、通常はこの方法で行われます</li> </ul>
オプション	[-c]
コメント	モデル設定のエクスポート
オプション	[-p]
コメント	ポリシーとポリシー グループのエクスポート
オプション	[-a]
コメント	ポリシー割り当てのエクスポート
オプション	[-r]
コメント	レジストリ キーのエクスポート
オプション	[-f]
コメント	ファイルシステム設定データのエクスポート
オプション	[-m]
コメント	メッセージのエクスポート
オプション	[-sqldmo]
コメント	SQL Server データベースへのアクセスに必要な SQL-DMO DLL がローカル マシンにインストールされているかどうかを調べます

## OVOW\_dnl\_conf.vbs ツールの前提条件のチェック

このユーティリティを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- **OVO** データベースがリモート データベースである場合は、データベースへのアクセスに必要な `sqldmo.dll` が **OVO** サーバーにインストールされているかどうかを調べます。
  - `-sqldmo` オプションを指定して、`OVOW_dnl_conf` を呼び出します。
  - **SQL-DMO** がインストールされている場合は、そのまま操作を続けます。
  - **SQL-DMO** がインストールされていない場合は、次のように操作します。
    - `bin` サブディレクトリに移動します。
    - `regsvr32` を使用して、用意されている `sqldmo.dll` を登録します。  
`regsvr32 sqldmo.dll` のように呼び出します。
    - 次に、`OVOW_dnl_conf -sqldmo` を再実行し、**SQL-DMO** が使用可能になったことを確認します。
- 実行可能ファイル `OvExtractMOF.exe` が、`OVOW_dnl_conf.vbs` と同じディレクトリに存在することを確認します。
- このユーティリティを実行するユーザーは、**OVOPS SQL Server** インスタンスの管理者グループのメンバーである必要があります。このグループに属していない場合、`OVOW_dnl_conf.vbs` は **OVOW** データベースにアクセスできません。

すべての条件が満たされている場合は、次のようにユーティリティを呼び出します。

```
OVOW_dnl_conf.vbs c:\temp\OVOWConfigDir
```


## OVO ユーザー ロールのダウンロード

次のコマンドを使用して **OVO** ユーザー ロールを XML ファイルにダウンロードしてください。

```
ovpmutil CFG USR DNL <user-roles.xml>
```



## OVO Reporter の設定のダウンロード

 このセクションは、完全バージョンの Reporter だけでなく、Reporter Light にも該当します。

OVR\_dnl\_conf\_db.vbs スクリプトは、Reporter のデータベース、レポート、パッケージをエクスポートします。自動的に次の処理が行われます。

- 7.21 または 7.5 システムから、パラメータとして渡されるフォルダにデータベース ダンプをエクスポートします。
- <Install Dir>\newconfig\packages から、パラメータとして渡されるフォルダに srp ファイルをコピーします。
- dir 構造を持つフォルダに <DataDir>\reports をコピーします。



このスクリプトは、データベースへの接続に Windows 認証を使用します。ログインしたユーザーが Reporter データベースへのアクセス権を持っていない場合、スクリプトの実行は失敗します。

### 移行ツール OVR\_dnl\_conf\_db.vbs

このツールは、Reporter の設定データをダウンロードして、設定ディレクトリに格納します。

**表 6 ツールのオプションとパラメータの説明**

パラメータ	"<エクスポート ディレクトリ>"
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理サーバーの設定データを格納するディレクトリを指定します</li> <li>• 存在しない場合はディレクトリが作成されます</li> <li>• ディスクドライブに十分な空き容量があることを確認してください</li> <li>• ディレクトリ名は、二重引用符で囲む必要があります</li> </ul>
オプション	[-p]
コメント	パッケージとレポート テンプレートのエクスポート

表 6 ツールのオプションとパラメータの説明

オプション	[-d]
コメント	レポート データベースのエクスポート。このオプションは、Reporter データベースが稼動するマシンでツールを実行する場合にのみ使用できます。OVO がリモート データベース サーバーを使用している場合、または OVO と OVO Reporter データベースが物理的に異なるノードで稼動している可能性がある、クラスタ環境で OVO が実行されている場合は注意が必要です。
オプション	[-v]
コメント	詳細モード

次に、ユーティリティの呼び出し例を示します。

```
"OVR_dnl_conf_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -p -d"
```



新しい OVO 管理サーバーを古いサーバーと同じ状態でインストールするには、どの SPI が OVO 管理サーバーにインストールされているか、などの設定情報を記録しておいてください。

## 並列移行ツールのコピー

OVO インストール CD の最上位ディレクトリ「Side-by-side Migration」から、新しい OVO 管理サーバーをインストールするマシンのローカル ディレクトリに、並列移行ツールをコピーします。

## 新しい OVO 管理サーバーへの OVO 7.5 のインストール

インストール手順については、OVO for Windows 7.5 のインストール ガイドを参照してください。

一般的な OVO 7.5 のインストールと、OVO 7.21 から OVO 7.5 管理サーバーへの並列移行の唯一の違いは、初期インストール時に SPI をインストールしないことです。

OVO 7.5 インストーラが基本 SPI (WinOS SPI、UNIX OS SPI、WebServer SPI) をインストールしないように、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Hewlett-Packard\CoreSPIMigration というレジストリ キーを作成します。

このレジストリ キーを作成するには、並列移行ツールが格納されたディレクトリに移動し、バッチ ファイル SBSM.bat を実行します。

これで OVO 7.5 のインストールを開始できます。



バッチ ファイル SBSM.bat を呼び出すと、レジストリ キーが作成されます。これを手動で作成することはできません。インストール前に、このバッチ ファイルを実行することは重要です。実行を省略した場合、移行は失敗します。



この時点ではアドオン SPI をインストールしないでください。この時点でインストールできるのは、製品のコア部分のみです。



古い OVO サーバーに完全バージョンの Reporter がインストールされている場合は、移行の最後の段階で、新しい OVO サーバーに Reporter をインストールする必要があります。

## 新しい OVO 管理サーバーの設定

### タスク 1: ローカル ユーザーまたは Windows ドメイン ユーザーの設定

OVO 管理サーバーの管理者とオペレータの Windows ユーザー アカウントを再作成します。

OVO 7.5 管理サーバー インストールのアカウントとしてローカル アカウントを選択した場合は、次のように操作します。

- 1 新しい OVO サーバーで、**[管理ツール]** → **[コンピュータの管理]** を選択し、表示を **[ローカル ユーザーとグループ]** に切り替えます。
- 2 ユーザーの選択画面で **[新しいユーザー]** を選択し、OVO オペレータ用の Windows ユーザー アカウントを作成します。

- 次に、HP-OVE-OPERATORS グループのプロパティ設定画面で **[メンバ]** タブを選択し、ユーザーを HP-OVE-OPERATORS グループに追加します。移行するすべての OVO 管理者とオペレータについて、この手順を繰り返します。

OVO 7.5 管理サーバー インストールのアカウントとして Windows ドメインアカウントを選択し、かつ、次の条件に該当する場合は、次のように操作します。

- 古い OVO 管理サーバーがローカル Windows ユーザーを使用していた
- 新しい OVO 管理サーバーが、管理者とオペレータの Windows ユーザーアカウントの管理に別の Windows ドメインを使用する
  - ドメイン コントローラで、**Active Directory マネージャ**を起動し、表示を **[Active Directory ユーザーとコンピュータ]** に切り替えます。
  - ユーザーの選択画面で **[新しいユーザー]** を選択し、OVO オペレータ用の Windows ドメイン ユーザーアカウントを作成します。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: neutron.dom/Users

姓(L): John

名(E): Block      イニシャル(I):

フルネーム(A): John Block

ユーザー ログオン名(U): johnb      @neutron.dom

ユーザー ログオン名 (Windows 2000 以前 (W)): NEUTRON#      johnb

< 戻る(B)      次へ(N) >      キャンセル

- c 次に、HP-OVE-OPERATORS グループのプロパティ設定画面で【メンバ】タブを選択し、ユーザーを HP-OVE-OPERATORS グループに追加します。移行するすべての OVO 管理者とオペレータについて、この手順を繰り返します。



## タスク 2: 自動配布を抑制するレジストリ キーの設定

自動配布を抑制しない場合、新しい管理サーバーへの移行時に、ポリシー管理によって新しいノードへのポリシーの配布が試みられる可能性があります。新しい管理サーバーは、まだこの新しいノードの管理を承認されていないため、配布ジョブは失敗します。自動配布を抑制するには、次のように操作します。

- `vpstat -3 -r STOP` を実行して、OVO 管理サーバーを停止します。
- 並列移行ツールが格納されているディレクトリに移動し、バッチ ファイル `ADEPOFF.bat` を実行します。
- `vpstat -3 -r START` を実行します。

### タスク 3: 新しい管理サーバーへの設定データのアップロード

#### cscript をデフォルト スクリプト ホストとして設定

デフォルトのスクリプト ホストを `cscript.exe` に設定します。これにより、スクリプトは、進捗状況の表示にポップアップ メッセージ ボックス ウィンドウではなく、コンソール出力を使用するようになります。スクリプトは、状態や進捗に関する多数のメッセージを生成します。これを、ツール出力またはコンソールメッセージの注釈として表示できます。

コマンド プロンプトで `cscript /h:cscript` を実行して、`cscript.exe` をサーバーのデフォルト スクリプト ホストにします。

#### 移行ツール OVOW\_upl\_conf.vbs



#### OVOW\_upl\_conf.vbs ツールの前提条件のチェック

このユーティリティを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- OVO データベースがリモート データベースである場合は、データベースへのアクセスに必要な `sqldmo.dll` が OVO サーバーにインストールされているかどうかを調べます。
  - `-sqldmo` オプションを指定して、`OVOW_upl_conf` を呼び出します。
  - SQL-DMO がインストールされている場合は、そのまま操作を続けます。
  - SQL-DMO がインストールされていない場合は、次のように操作します。
    - `bin` サブディレクトリに移動します。
    - `regsvr32` を使用して、用意されている `sqldmo.dll` を登録します。  
`regsvr32 sqldmo.dll` のように呼び出します。
    - 次に、`OVOW_upl_conf -sqldmo` を再実行し、SQL-DMO が使用可能になったことを確認します。
- このユーティリティを実行するユーザーは、OVOPS SQL Server インスタンスの管理者グループのメンバーである必要があります。

#### OVOW\_upl\_conf.vbs の使用

- 1 事前にダウンロードした設定データを、アクティブ クラスタ ノード (たとえば、`c:\temp\ConfigDir` ディレクトリ) にコピーします。ディレクトリパスにはスペース (空白) 文字は使用できません。

- 2 リモート マシンまたは別のクラスタ ノードで OVO データベースを実行している場合は、リモート データベース サーバー上の、同じ論理ドライブ名の同じパスに、<OVOConfigDir>\Messages ディレクトリと、次の2つのファイルをコピーします。

- <Side-by-side Migration>\ov\_ms\_message.fmt
- <Side-by-side Migration>\ov\_ms\_annotation.fmt

この<OVOConfigDir>は、ダウンロードした OVO 設定データが可能されているディレクトリです。

<Side-by-side Migration> は、並列移行ツールが格納されているディレクトリです。

- 3 OVOW\_upl\_conf.vbs を使用して、設定データをアップロードします。  
OVOW\_upl\_conf.vbs c:\temp\OVOWConfigDir

**表7 ツールのオプションとパラメータの説明**

パラメータ	<インポート ディレクトリ>
コメント	管理サーバーの設定データを格納するディレクトリを指定します
オプション	[ ]
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オプションが指定されていない場合、すべての設定データがアップロードされます</li> <li>• OVO の単一システムからクラスタへの移行は、通常はこの方法で行われます</li> </ul>
オプション	[-c]
コメント	モデル設定のインポート
オプション	[-p]
コメント	ポリシーとポリシー グループのインポート
オプション	[-a]
コメント	ポリシー割り当てのインポート
オプション	[-r]

表 7 ツールのオプションとパラメータの説明

パラメータ	<インポート ディレクトリ>
コメント	レジストリ キーのインポート
オプション	[-f]
コメント	ファイルシステム設定データのインポート
オプション	[-m]
コメント	メッセージのインポート
オプション	[-sqldmo]
コメント	SQL Server データベースへのアクセスに必要な SQL-DMO DLL がローカル マシンにインストールされ ているかどうかを調べます

#### タスク 4: OVO ユーザー ロールのアップロード

事前にダウンロードした <user-roles.xml> XML ファイルを新しい OVO 管理サーバーにコピーし、次のコマンドを使用して OVO ユーザー ロールをアップロードします。

```
ovpmutil CFG USR UPL <user-roles.xml>
```

OVO ユーザー ロールに対する Windows ユーザーの割り当ては、当該ユーザーが新しい OVO 管理サーバーにおいて既知かどうかに関係なく、新しい OVO 管理サーバーに移行されます。ユーザーが未知の場合、OVO ユーザー ロールエディタの [ユーザー] タブの [ユーザー名] プロパティには [Unknown Account] と表示されます。これらの不明なユーザーは、削除のうえ、代わりのユーザー アカウントに置き換える必要があります。

不明なユーザーを置き換えるには、新しい OVO 管理サーバーでコンソールを開いてユーザー ロールエディタを起動します。それぞれのユーザー ロールごとに、ユーザー ロールを選択して [プロパティ] をクリックし、[ユーザー ロールプロパティ] ダイアログを開きます。不明なユーザー アカウントがないかどうかチェックし、見つかった場合には適宜変更します。



## タスク 5: Reporter 設定データのアップロード



このセクションは、完全バージョンの Reporter だけでなく、Reporter Light にも該当します。

OVO 7.5 システムへのパッケージ、レポート、データベースのインポートには、OVR\_upl\_conf\_db.vbs スクリプトを使用します。このスクリプトを呼び出す前に、OVR\_dnl\_conf\_db.vbs を使用してエクスポートしたファイルを、OVO 7.5 システムにコピーしておきます。ダウンロード データを格納したフォルダの場所は、パラメータとしてスクリプトに渡されます。

このスクリプトは、次の処理を自動的に行います。

- Reporter データベースを 7.5 システムにインポートします。このとき、7.5 システムに存在する古いデータベースは削除されます。
- 7.5 システムに .srp ファイルをコピーします。既存の .srp ファイルの上書きも選択できます。
- 7.5 システムにレポートをコピーします。既存のレポート テンプレートの上書きも選択できます。
- **newdb** を実行して、移行後のデータベースを 3.6 互換にします。OVO とデータベースを別のマシンで実行する場合は、データベースが稼動しているマシンに newdb.exe が存在しないため、アップロード時に newdb を起動できません。

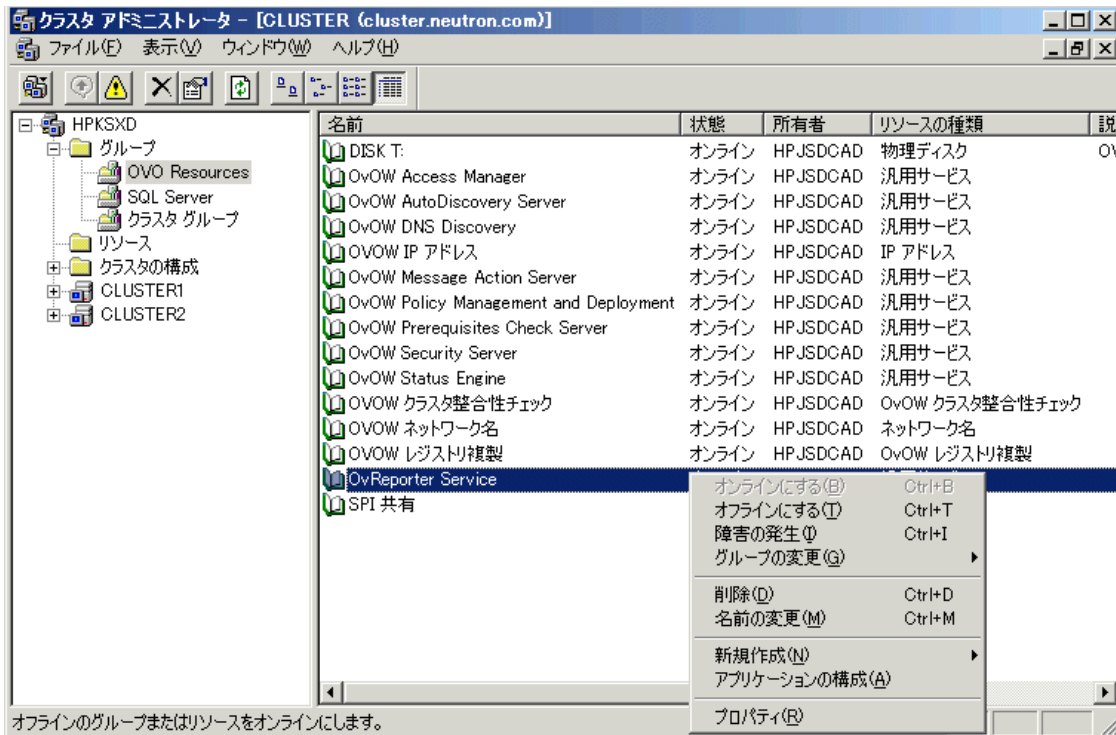
### 重要な注記

- 1 OVO 7.5 は Crystal 10 レポート テンプレートを使用し、OVO 7.21 は Crystal 8.5 レポート テンプレートを使用します。バージョン 8.5 などの古い Crystal を使用して作成したテンプレートには、下位互換性の問題があります。古いテンプレートが存在する場合、アップロード時にテンプレートを上書きするかどうかを確認されます。
  - a すべてのテンプレートを上書きする場合は、**[すべて]** を選択します。
  - b 現在のテンプレートを上書きする場合は、**[はい]** を選択します。
  - c 現在のテンプレートを上書きしない場合は、**[いいえ]** を選択します。



いかなる場合も、7.5 のレポート テンプレートを 7.21 のテンプレートで上書きしないでください。7.5 に存在しないカスタム テンプレートだけを上書きします。これらのカスタム テンプレートを CR 10 互換にするには、修正が必要です。CR 10 の問題については、リリース ノートを参照してください。

- 2 このスクリプトは、データベースへの接続に Windows 認証を使用します。ログインしたユーザーがデータベースへのアクセス権を持っていない場合、スクリプトの実行は失敗します。
- 3 OVR\_upl\_conf\_db.vbs -d を呼び出して Reporter データベースをアップロードする前に、Reporter サービスを停止する必要があります。Reporter サービスを停止するには、コマンド プロンプトを開き、**net stop reporter** を実行します。最初にクラスタ アドミニストレータを起動して OVO グループを選択し、OvReporter サービスをオフラインにします。



- 4 Reporter データベースのインポート中は、Reporter データベースへのアクティブな接続は存在できません。接続が存在する場合、インポートは失敗します。データベースのインポート前に、Reporter データベースにアクセスするすべてのプロセスを中止または終了してください。

- 5 OVO DB ユーザー パスワードは、ovrpwdencrypt.exe ツール (%OvInstallDir%\bin\ovrpwdencrypt.exe) を使用して変更できます。新しい Reporter データベース内のパスワードが、古い Reporter データベース内のパスワードと一致しない場合は、パスワードの変更が必要です。
- 6 コマンド プロンプトで net start reporter を実行し、Reporter サービスを開始します。

### 移行ツール OVR\_upl\_conf\_db.vbs

このツールは、事前に設定ディレクトリに保存した Reporter 設定データをアップロードします。また、OVR\_dn1\_conf\_db.vbs を使用して保存した Reporter データベースを復元します。

**表 8 ツールのオプションとパラメータの説明**

パラメータ	"< インポート ディレクトリ >"
コメント	OVO Reporter の設定データを格納するディレクトリを指定します。ディレクトリ名は、二重引用符で囲む必要があります。
オプション	[-p]
コメント	パッケージとレポート テンプレートのインポート
オプション	[-d]
コメント	レポート データベースのインポート。このオプションは、Reporter データベースが稼動するマシンでツールを実行する場合にのみ使用できます。OVO がリモート データベース サーバーを使用している場合、または OVO と OVO Reporter データベースが物理的に異なる ノードで稼動している可能性がある、クラスタ環境で OVO が実行されている場合は注意が必要です。  このオプションを指定して OVR_upl_conf_db.vbs を呼び出す場合は、事前に Reporter サービスを停止する必要があります。
オプション	[-v]
コメント	詳細モード

- OVO サーバーと Reporter データベースが同一システムで稼動する場合は、ユーティリティを次のように実行します。  
`"OVR_upl_conf_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -p -d"`
  - OVO がリモート データベースまたはクラスタ環境にインストールされている場合や、OVO と OVO データベースが現在別のノードで稼動している場合など、OVO サーバーと Reporter データベースが異なるシステムで稼動する場合は、OVR\_upl\_conf\_db.vbs を 2 回呼び出す必要があります。
    - まず、OVO サーバーで実行し、Reporter 設定データをインポートします。  
`"OVR_upl_conf_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -p"`
    - 次に、Reporter データベースが稼動するサーバーで実行し、Reporter データベースをインポートします。  
`"OVR_upl_conf_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -d"`
- OpenView データベース ユーザーのパスワードが求められる場合があります。このパスワードは、デフォルトでは「openview」です。OVO サーバーに戻り、`<%OVInstallDir%>\bin\newdb.exe` ツールを実行してください。

### タスク 6: 古い管理サーバー ノードの削除

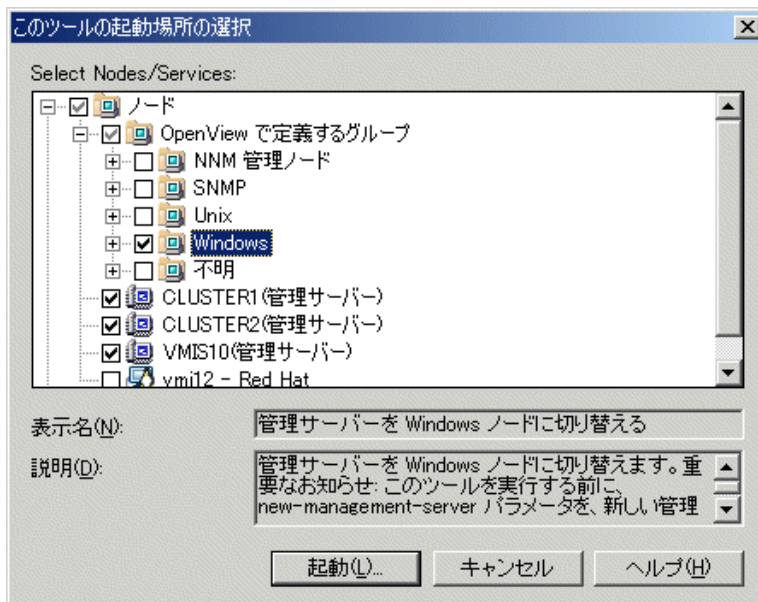
古い管理サーバー ノードは、移行ユーティリティによって新しい OVO 7.5 サーバーのノード グループに移行されました。[ノード] ビューから古い管理サーバー ノードを削除します。

### タスク 7: エージェントの切り替え

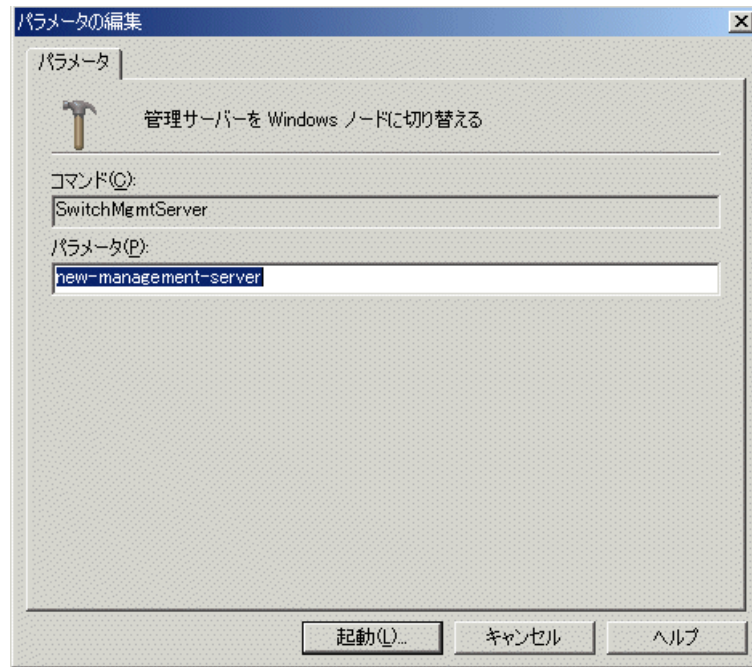
次に、管理ノードのエージェントが古い OVO 管理サーバーではなく、新しい管理サーバーを使用するように設定する必要があります。

- 1 新しい OVO 管理サーバーで管理コンソールを起動し、コンソール ツリーで [ツール] → [OpenView ツール] を選択します。「Switch Management Server for Windows nodes」と「Switch Management Server for Unix nodes」という 2 つのツールが必要です。
- 2 Windows 管理ノードの設定では、[Switch Management Server for Windows nodes] ツールを右クリックし、[すべてのタスク] → [ツールの起動] を選択します。

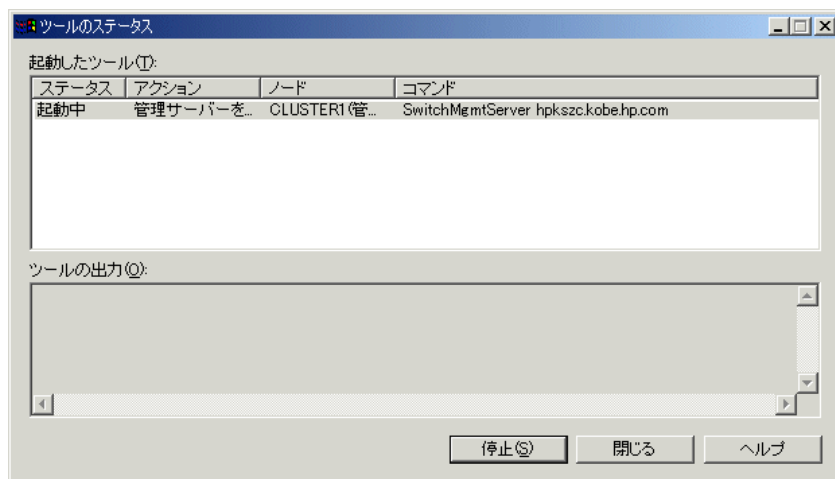
- 3 ノード選択ツリーが表示されるので、すべての Windows 管理ノードにチェックマークを付け、**[ 起動 ... ]** をクリックします。



- 4 パラメータ パネルが表示されるので、新しい OVO 管理サーバーの完全修飾ドメイン名を入力し、もう一度 **[起動 ...]** をクリックします。



- 5 **[ツールのステータス]** パネルが表示されます。選択されているすべてのノードで、ツールのステータスが「起動中」となっていることを確認してください。このステータスは、すべての管理ノードでツールが正しく実行されたことを示しています。ステータスが「起動中」から「成功」または「完了」に切り替わることはありません。



選択されているノードのステータスが「失敗」に切り替わっている場合、そのノードではツールが正しく実行されていません。

- 該当するノードと、管理サーバーから管理ノードへのネットワーク接続を調べてください。
- 次に、そのノードに対して **[Switch Management Server for Windows nodes]** ツールをもう一度実行します。

UNIX 管理ノードの設定では、同様の方法でノードに **[Switch Management Server for Unix nodes]** ツールを適用します。

ツールが正しく実行されれば、すべての管理ノードが新しい OVO 管理サーバーに対してレポートを行うようになります。

### タスク 8: 自動配布の有効化

自動配布を有効化するには、次のように操作します。

- `vpstat -3 -r STOP` を実行して、OVO 管理サーバーを停止します。
- 並列移行ツールが格納されているディレクトリに移動し、バッチ ファイル `ADEPON.bat` を実行します。
- `vpstat -3 -r START` を実行します。

### タスク 9: 新しい管理サーバー ノードへのポリシーの再配布

古い管理サーバーのすべてのポリシー割り当ては、移行ユーティリティによって新しい管理サーバー ノードに移行されます。これは、管理サーバーの個々のポリシー割り当てを維持するために必要です。

しかし、移行ツールはポリシー割り当てを OVO データベースに移行するだけで、それを管理サーバーに配布しないため、新しい管理サーバー ノードで **[すべてのポリシーとパッケージの再配布]** を実行する必要があります。



「すべてのポリシーとパッケージの再配布」は、管理ノードではなく、新しい管理サーバー自体に対してのみ実行します。

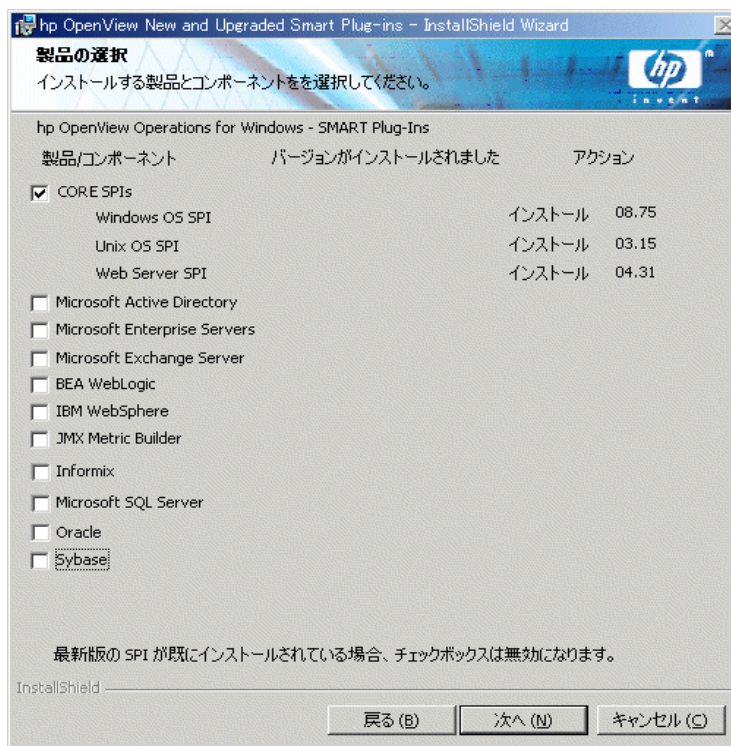


## タスク 10: OVO SPI のインストール

次に、基本 SPI (WinOS SPI、UNIX OS SPI、WebServer SPI) と、古い OVO サーバーにインストールされていた、その他すべての SPI をインストールします。

- 1 SPI CD 2005.1 を開き、setup.bat を実行します。インストーラ ウィンドウの製品選択パネルが表示されるので、**[CORE SPIs]** を選択します。
- 2 新しい OVO 7.5 サーバーへのインストールが必要な、その他の SPI について、記録しておいた設定情報を確認します (42 ページを参照)。

▶ 85 ページの「コア SPI の移行」を参照してください。また、SPI CD に収録されているドキュメントも参照してください。



## タスク 11: Reporter のインストール

古い OVO 7.21 にインストールされていた場合は、完全バージョンの Reporter をインストールします。

## OVO 7.21 管理サーバーから MS クラスタへの移行

移行を開始する前に、33 ページの「古い管理サーバーで実行するステップ」と、42 ページの「並列移行ツールのコピー」の操作を実行してください。

### クラスタへの OVO 7.5 のインストール

インストール手順については、OVO for Windows 7.5 のインストール ガイドを参照してください。

一般的な OVO 7.5 のインストールと、OVO 7.21 から OVO 7.5 管理サーバーへの並列移行の唯一の違いは、初期インストール時に SPI をインストールしないことです。SPI のインストールは、移行の最後の段階で行います。

OVO 7.5 インストーラが基本 SPI (WinOS SPI、UNIX OS SPI、WebServer SPI) をインストールしないように、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Hewlett-Packard\CoreSPIMigration というレジストリ キーを作成します。

このレジストリ キーを作成するには、並列移行ツールが格納されたディレクトリに移動し、バッチ ファイル SBSM.bat を実行します。

これで OVO 7.5 のインストールを開始できます。



バッチ ファイル SBSM.bat を呼び出すと、レジストリ キーが作成されます。これを手動で作成することはできません。インストール前に、このバッチ ファイルを実行することは重要です。実行を省略した場合、移行は失敗します。



この時点ではアドオン SPI をインストールしないでください。この時点でインストールできるのは、製品のコア部分のみです。

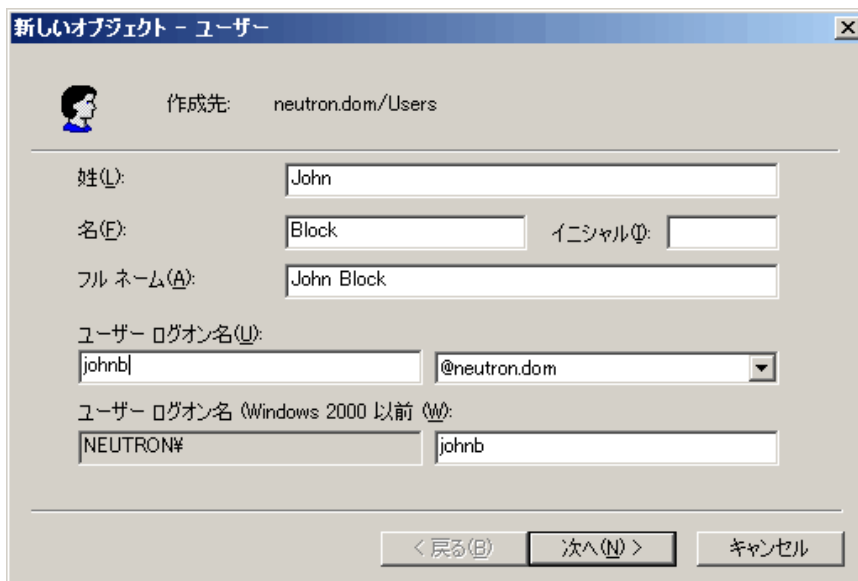
OVO 7.5 を正しくインストールしたら、プライマリ クラスタ ノード (OVO のインストールを開始した物理クラスタ ノード) に戻り、クラスタ アドミニストレータを起動します。OVO グループ、および OVO データベースをホスティングする MS SQL グループを、プライマリ クラスタ ノードに戻します。

## OVO クラスタの設定

### タスク 1: Windows ドメイン ユーザーの設定

次の条件に該当する場合は、OVO 管理サーバーの管理者とオペレータの Windows ユーザー アカウントを再作成します。

- 古い OVO 管理サーバーがローカル Windows ユーザーを使用していた、または
  - 新しい OVO 管理サーバーが、管理者とオペレータの Windows ユーザー アカウントの管理に別の Windows ドメインを使用する
- 1 ドメイン コントローラで、**Active Directory マネージャ**を起動し、表示を **[Active Directory ユーザーとコンピュータ]** に切り替えます。
  - 2 ユーザーの選択画面で **[新しいユーザー]** を選択し、OVO オペレータ用の Windows ユーザー アカウントを作成します。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: neutron.dom/Users

姓(L): John

名(E): Block      イニシャル(I):

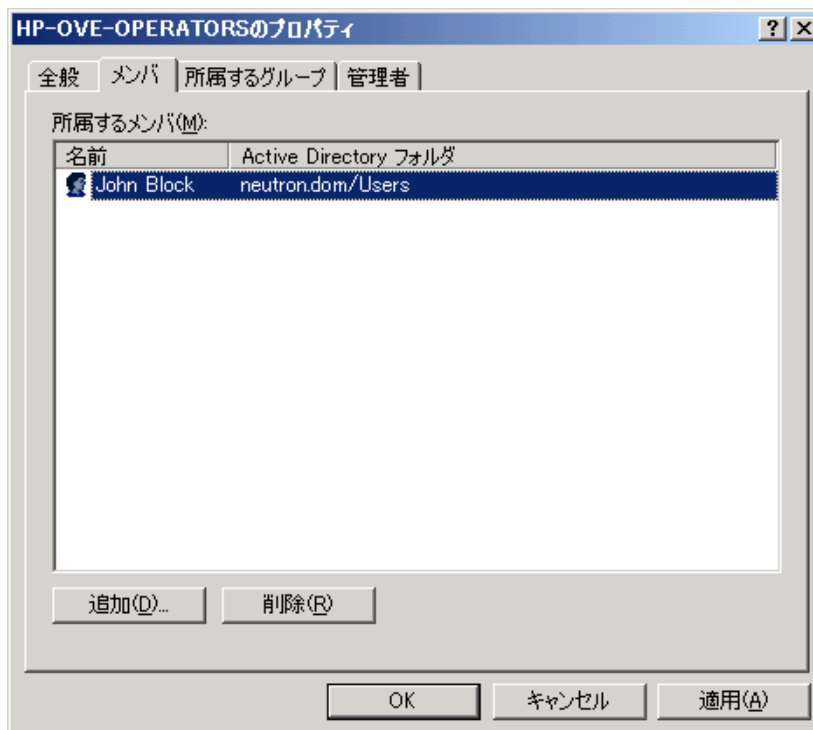
フル ネーム(A): John Block

ユーザー ログオン名(L): johnb      @neutron.dom

ユーザー ログオン名 (Windows 2000 以前 (W)): NEUTRON#johnb

< 戻る(B)      次へ(N) >      キャンセル

- 次に、HP-OVE-OPERATORS グループのプロパティ設定画面で [メンバ] タブを選択し、ユーザーを HP-OVE-OPERATORS グループに追加します。移行するすべての OVO 管理者とオペレータについて、この手順を繰り返します。



## タスク 2: 自動配布を抑制するレジストリ キーの設定

自動配布を抑制しない場合、新しい管理サーバーへの移行時に、ポリシー管理によって新しいノードへのポリシーの配布が試みられる可能性があります。新しい管理サーバーは、まだこの新しいノードの管理を承認されていないため、配布ジョブは失敗します。自動配布を抑制するには、次のように操作します。

- コマンド プロンプトを表示し、次のコマンドを実行して OVO を停止します。  
**vpstat -3 -r STOP**
- 並列移行ツールが格納されているディレクトリに移動し、バッチ ファイル ADEPOFF.bat を実行します。

- コマンド プロンプトに戻り、次のコマンドを実行して OVO を起動します。  
`vpstat -3 -r START`

### タスク 3: クラスタ化された管理サーバーへの設定データのアップロード

#### cscript をデフォルト スクリプト ホストとして設定

デフォルトのスクリプト ホストを `cscript.exe` に設定します。これにより、スクリプトは、進捗状況の表示にポップアップ メッセージ ボックス ウィンドウではなく、コンソール出力を使用するようになります。スクリプトは、状態や進捗に関する多数のメッセージを生成します。これを、ツール出力またはコンソール メッセージの注釈として表示できます。

コマンド プロンプトで `cscript /h:cscript` を実行して、`cscript.exe` をサーバーのデフォルト スクリプト ホストにします。

#### 移行ツール OVOW\_upl\_conf.vbs



#### OVOW\_upl\_conf.vbs ツールの前提条件のチェック

このユーティリティを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- OVO データベースがリモート データベースである場合は、データベースへのアクセスに必要な `sqlldmo.dll` が OVO サーバーにインストールされているかどうかを調べます。
  - `-sqlldmo` オプションを指定して、`OVOW_upl_conf` を呼び出します。
  - SQL-DMO がインストールされている場合は、そのまま操作を続けます。
  - SQL-DMO がインストールされていない場合は、次のように操作します。
    - `bin` サブディレクトリに移動します。
    - `regsvr32` を使用して、用意されている `sqlldmo.dll` を登録します。  
`regsvr32 sqlldmo.dll` のように呼び出します。
    - 次に、`OVOW_upl_conf -sqlldmo` を再実行し、SQL-DMO が使用可能になったことを確認します。
- このユーティリティを実行するユーザーは、OVOPS SQL Server インスタンスの管理者グループのメンバーである必要があります。

### OVOW\_upl\_conf.vbs の使用


- 1 事前にダウンロードした設定データを、アクティブ クラスタ ノード (たとえば、c:\temp\ConfigDir ディレクトリ) にコピーします。ディレクトリパスにはスペース (空白) 文字は使用できません。
- 2 リモート マシンまたは別のクラスタ ノードで OVO データベースを実行している場合は、リモート データベース サーバー上の、同じ論理ドライブ名の同じパスに、<OVOConfigDir>\Messages ディレクトリと、次の 2 つのファイルをコピーします。

- <Side-by-side Migration>\ov\_ms\_message.fmt
- <Side-by-side Migration>\ov\_ms\_annotation.fmt

この <OVOConfigDir> は、ダウンロードした OVO 設定データが可能されているディレクトリです。

<Side-by-side Migration> は、並列移行ツールが格納されているディレクトリです。

- 3 OVOW\_upl\_conf.vbs を使用して、設定データをアップロードします。  
OVOW\_upl\_conf.vbs c:\temp\OVOWConfigDir

 アップロード ツールを実行した OVO クラスタ グループがアクティブになります。

**表 9 ツールのオプションとパラメータの説明**

パラメータ	<インポート ディレクトリ>
コメント	管理サーバーの設定データを格納するディレクトリを指定します
オプション	[ ]
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オプションが指定されていない場合、すべての設定データがアップロードされます</li> <li>• OVO の単一システムからクラスタへの移行は、通常はこの方法で行われます</li> </ul>
オプション	[-c]
コメント	モデル設定のインポート

表 9 ツールのオプションとパラメータの説明

パラメータ	< インポート ディレクトリ >
オプション	[-p]
コメント	ポリシーとポリシー グループのインポート
オプション	[-a]
コメント	ポリシー割り当てのインポート
オプション	[-r]
コメント	レジストリ キーのインポート
オプション	[-f]
コメント	ファイルシステム設定データのインポート
オプション	[-m]
コメント	メッセージのインポート
オプション	[-sqldmo]
コメント	SQL Server データベースへのアクセスに必要な SQL-DMO DLL がローカル マシンにインストールされているかどうかを調べます

#### タスク 4: OVO ユーザー ロールのアップロード

事前にダウンロードした <user-roles.xml> XML ファイルを新しい OVO 管理サーバーにコピーし、次のコマンドを使用して OVO ユーザー ロールをアップロードします。

```
ovpmtutil CFG USR UPL <user-roles.xml>
```

OVO ユーザー ロールに対する Windows ユーザーの割り当ては、当該ユーザーが新しい OVO 管理サーバーにおいて既知かどうかに関係なく、新しい OVO 管理サーバーに移行されます。ユーザーが未知の場合、OVO ユーザー ロールエディタの [ユーザー] タブの [ユーザー名] プロパティには [Unknown Account] と表示されます。これらの不明なユーザーは、削除のうえ、代替りのユーザー アカウントに置き換える必要があります。

不明なユーザーを置き換えるには、新しい OVO 管理サーバーでコンソールを開いてユーザー ロール エディタを起動します。それぞれのユーザー ロールごとに、ユーザー ロールを選択して [プロパティ] をクリックし、[ユーザー ロールプロパティ] ダイアログを開きます。不明なユーザー アカウントがないかどうかチェックし、見つかった場合には適宜変更します。

### タスク 5: Reporter 設定データのアップロード



このセクションは、完全バージョンの Reporter だけでなく、Reporter Light にも該当します。

OVO 7.5 システムへのパッケージ、レポート、データベースのインポートには、OVR\_up1\_conf\_db.vbs スクリプトを使用します。このスクリプトを呼び出す前に、OVR\_dn1\_conf\_db.vbs を使用してエクスポートしたファイルを、OVO 7.5 システムにコピーしておきます。ダウンロード データを格納したフォルダの場所は、パラメータとしてスクリプトに渡されます。

このスクリプトは、自動的に次の処理を行います。

- Reporter データベースを 7.5 システムにインポートします。このとき、7.5 システムに存在する古いデータベースは削除されます。
- 7.5 システムに .srp ファイルをコピーします。既存の .srp ファイルの上書きも選択できます。
- 7.5 システムにレポートをコピーします。既存のレポート テンプレートの上書きも選択できます。
- **newdb** を実行して、移行後のデータベースを 3.6 互換にします。OVO とデータベースを別のマシンで実行する場合は、データベースが稼動しているマシンに newdb.exe が存在しないため、アップロード時に newdb を起動できません。

#### 重要な注記

- 1 OVO 7.5 は Crystal 10 レポート テンプレートを使用し、OVO 7.21 は Crystal 8.5 レポート テンプレートを使用します。バージョン 8.5 などの古い Crystal を使用して作成したテンプレートには、逆互換性の問題があります。古いテンプレートが存在する場合、アップロード時にテンプレートを上書きするかどうかを確認されます。
  - a すべてのテンプレートを上書きする場合は、**[すべて]** を選択します。
  - b 現在のテンプレートを上書きする場合は、**[はい]** を選択します。



c 現在のテンプレートを上書きしない場合は、**[いいえ]**を選択します。



いかなる場合も、7.5 のレポート テンプレートを 7.21 のテンプレートで上書きしないでください。7.5 に存在しないカスタム テンプレートだけを上書きします。これらのカスタム テンプレートを CR 10 互換にするには、修正が必要です。CR 10 の問題については、リリース ノートを参照してください。

- 2 このスクリプトは、データベースへの接続に Windows 認証を使用します。ログインしたユーザーがデータベースへのアクセス権を持っていない場合、スクリプトの実行は失敗します。
- 3 OVR\_upl\_conf\_db.vbs -d を呼び出して Reporter データベースをアップロードする前に、Reporter サービスと OVO サービスを停止する必要があります。クラスタ アドミニストレータを起動して、[SQL Server / MSDE インスタンス名の入力] から OVO グループをオフラインにしてください。
- 4 Reporter データベースのインポート中は、Reporter データベースへのアクティブな接続は存在できません。接続が存在する場合、インポートは失敗します。データベースのインポート前に、Reporter データベースにアクセスするすべてのプロセスを中止または終了してください。
- 5 OVO DB ユーザー パスワードは、ovrpwdencrypt.exe ツール (%OvInstallDir%\bin\ovrpwdencrypt.exe) を使用して変更できます。新しい Reporter データベース内のパスワードが、古い Reporter データベース内のパスワードと一致しない場合は、パスワードの変更が必要です。
- 6 クラスタ アドミニストレータを起動して、OVO グループをオンラインに戻します。

### 移行ツール OVR\_upl\_conf\_db.vbs

このツールは、事前に設定ディレクトリに保存した Reporter 設定データをアップロードします。また、OVR\_dn1\_conf\_db.vbs を使用して保存した Reporter データベースを復元します。

**表 10 ツールのオプションとパラメータの説明**

パラメータ	"< インポート ディレクトリ >"
コメント	OVO Reporter の設定データを格納するディレクトリを指定します。ディレクトリ名は、二重引用符で囲む必要があります。
オプション	[-p]
コメント	パッケージとレポート テンプレートのインポート
オプション	[-d]
コメント	レポート データベースのインポート。このオプションは、Reporter データベースが稼動するマシンでツールを実行する場合にのみ使用できます。OVO がリモートデータベース サーバーを使用している場合、または OVO と OVO Reporter データベースが物理的に異なるノードで稼動している可能性がある、クラスタ環境で OVO が実行されている場合は注意が必要です。  このオプションを指定して OVR_upl_conf_db.vbs を呼び出す場合は、事前に Reporter サービスを停止する必要があります。
オプション	[-v]
コメント	詳細モード

- OVO サーバーと Reporter データベースが同一システムで稼動する場合は、ユーティリティを次のように実行します。  
"OVR\_upl\_conf\_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -p -d"

- OVO がリモート データベースまたはクラスタ環境にインストールされている場合や、OVO と OVO データベースが現在別のノードで稼働している場合など、OVO サーバーと Reporter データベースが異なるシステムで稼働する場合は、OVR\_upl\_conf\_db.vbs を 2 回呼び出す必要があります。
  - まず、OVO サーバーで実行し、Reporter 設定データをインポートします。

```
"OVR_upl_conf_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -p"
```
  - 次に、Reporter データベースが稼働するサーバーで実行し、Reporter データベースをインポートします。

```
"OVR_upl_conf_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -d"
```

OpenView データベース ユーザーのパスワードが求められる場合があります。このパスワードは、デフォルトでは「openview」です。OVO サーバーに戻り、**<%OVInstallDir%\binnewdb.exe** ツールを実行してください。

#### タスク 6: 古い管理サーバー ノードの削除

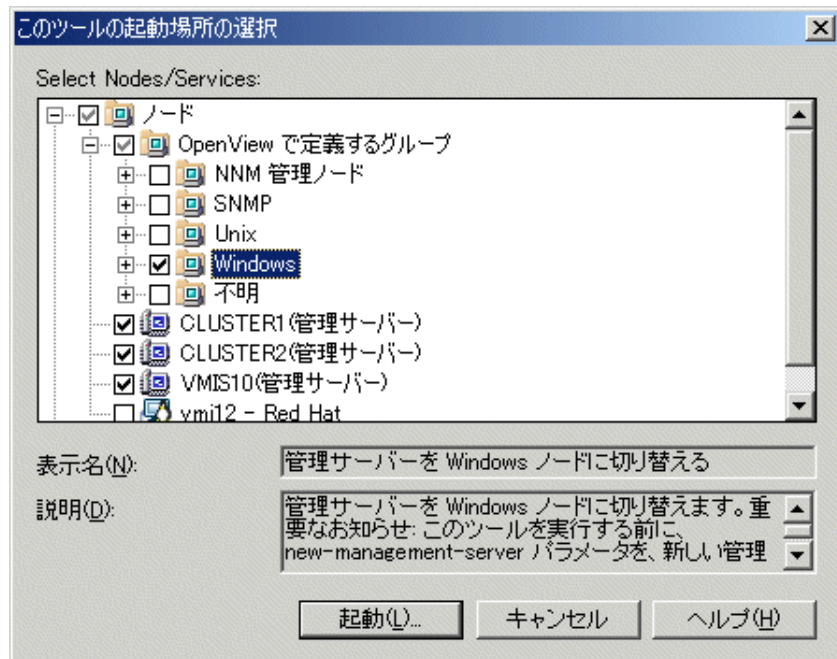
古い管理サーバー ノードは、移行ユーティリティによって新しい OVO 7.5 サーバーのノード グループに移行されました。[ ノード ] ビューから古い管理サーバー ノードを削除します。

#### タスク 7: エージェントの切り替え

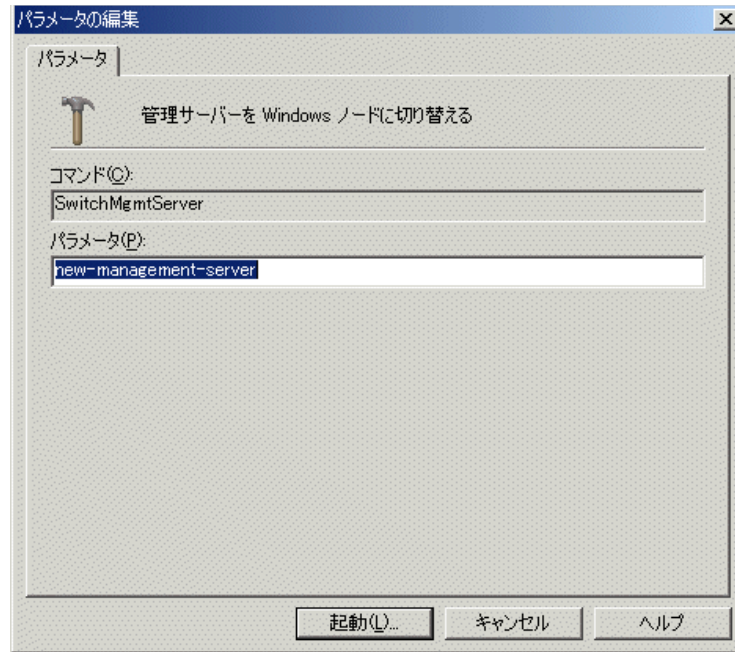
次に、管理ノードのエージェントが古い OVO 管理サーバーではなく、新しい管理サーバーを使用するように設定する必要があります。

- 1 新しい OVO 管理サーバーで管理コンソールを起動し、コンソール ツリーで **[ ツール ]** → **[ OpenView ツール ]** を選択します。「Switch Management Server for Windows nodes」と「Switch Management Server for Unix nodes」という 2 つのツールが必要です。
- 2 Windows 管理ノードの設定では、**[ Switch Management Server for Windows nodes ]** ツールを右クリックし、**[ すべてのタスク ]** → **[ ツールの起動 ]** を選択します。

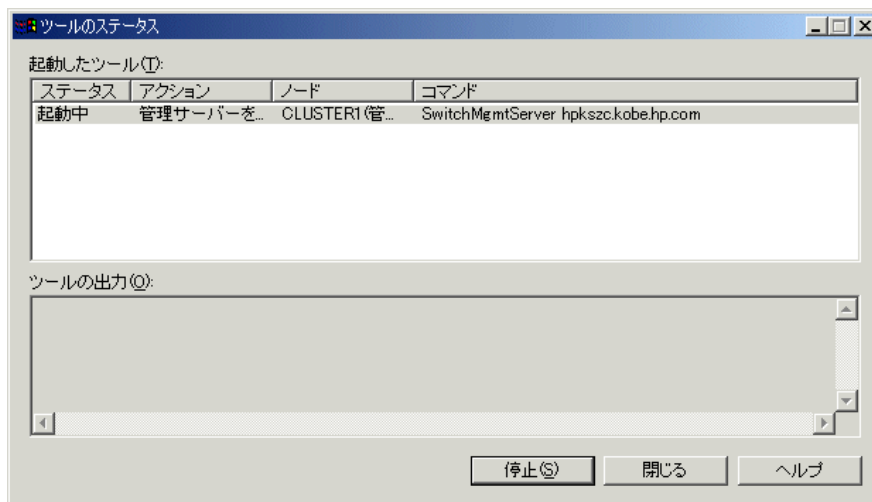
- 3 ノード選択ツリーが表示されるので、すべての Windows 管理ノードにチェックマークを付け、**[ 起動 ... ]** をクリックします。



- パラメータ パネルが表示されるので、新しい OVO 管理サーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。クラスタ化された OVO サーバーの仮想名を指定してください。もう一度 **[起動 ...]** をクリックします。



- 5 **[ツールのステータス]** パネルが表示されます。選択されているすべてのノードで、ツールのステータスが「起動中」となっていることを確認してください。このステータスは、すべての管理ノードでツールが正しく実行されたことを示しています。ステータスが「起動中」から「成功」または「完了」に切り替わることはありません。



選択されているノードのステータスが「失敗」に切り替わっている場合、そのノードではツールが正しく実行されていません。

- 該当するノードと、管理サーバーから管理ノードへのネットワーク接続を調べてください。
- 次に、そのノードに対して **[Switch Management Server for Windows nodes]** ツールをもう一度実行します。

UNIX 管理ノードの設定では、同様の方法でノードに **[Switch Management Server for Unix nodes]** ツールを適用します。

ツールが正しく実行されれば、すべての管理ノードがクラスタ化された OVO 管理サーバーに対してレポートを行うようになります。

## タスク 8: 自動配布の有効化

自動配布を有効化するには、次のように操作します。

- コマンドプロンプトを表示し、次のコマンドを実行して OVO を停止します。  
`vpstat -3 -r STOP`
- 並列移行ツールが格納されているディレクトリに移動し、バッチファイル ADEPON.bat を実行します。
- コマンドプロンプトに戻り、次のコマンドを実行して OVO を起動します。  
`vpstat -3 -r START`

## タスク 9: 新しい管理サーバー ノードへのポリシーの再配布

古い管理サーバーのすべてのポリシー割り当ては、移行ユーティリティによって新しい管理サーバー ノードに移行されます。これは、管理サーバーの個々のポリシー割り当てを維持するために必要です。

しかし、移行ツールはポリシー割り当てを OVO データベースに移行するだけで、それを管理サーバーに配布しないため、新しい管理サーバー ノードで **[すべてのポリシーとパッケージの再配布]** を実行する必要があります。

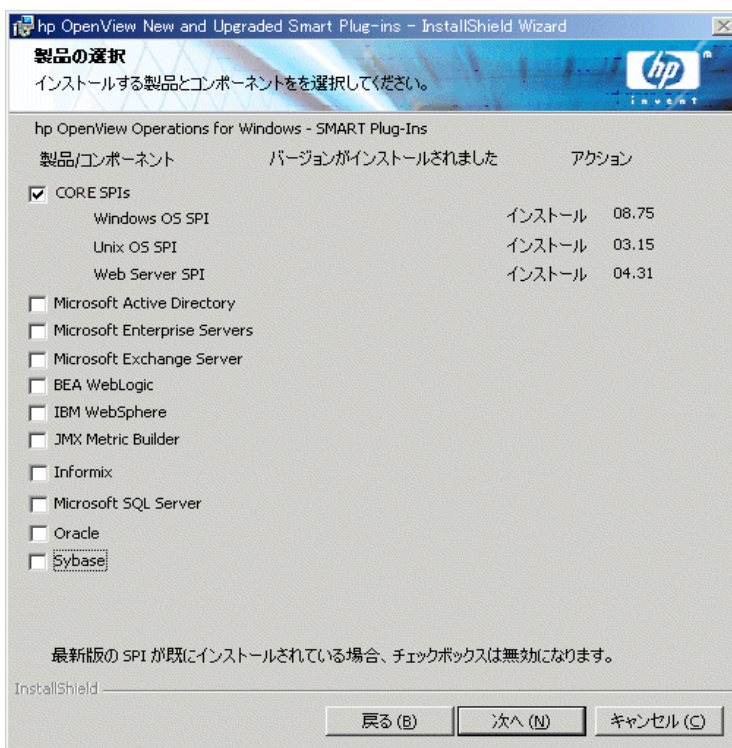


[すべてのポリシーとパッケージの再配布] は、管理サーバー自体に対してのみ実行します。

## タスク 10: OVO SPI のインストール

次に、基本 SPI (WinOS SPI、UNIX OS SPI、WebServer SPI) と、古い OVO サーバーにインストールされていた、その他すべての SPI をインストールします。

- 1 SPI CD 2005.1 を開き、setup.bat を実行します。
- 2 インストーラ ウィンドウの製品選択パネルが表示されるので、**[CORE SPIs]** を選択します。
- 3 新しい OVO 7.5 サーバーへのインストールが必要な、その他の SPI について、記録しておいた設定情報を確認します (42 ページを参照)。





## OVO 7.5 管理サーバーから MS クラスタへの移行

移行を開始する前に、33 ページの「古い管理サーバーで実行するステップ」と、42 ページの「並列移行ツールのコピー」の操作を実行してください。

### クラスタへの OVO 7.5 のインストール

クラスタ インストールの手順については、OVO for Windows 7.5 のインストールガイドを参照してください。

一般的な OVO 7.5 のインストールと、OVO 7.5 への並列移行の唯一の違いは、初期クラスタ インストール時に SPI をインストールしないことです。SPI のインストールは、移行の最後の段階で行います。

OVO 7.5 インストーラが基本 SPI をインストールしないように、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Hewlett-Packard\CoreSPIMigration というレジストリ キーを作成します。

このレジストリ キーを作成するには、並列移行ツールが格納されたディレクトリに移動し、バッチ ファイル SBSM.bat を実行します。

これで OVO 7.5 のインストールを開始できます。



バッチ ファイル SBSM.bat を呼び出すと、レジストリ キーが作成されます。これを手動で作成することはできません。インストール前に、このバッチ ファイルを実行することは重要です。実行を省略した場合、移行は失敗します。



この時点ではアドオン SPI をインストールしないでください。この時点でインストールできるのは、製品のコア部分のみです。

OVO 7.5 を正しくインストールしたら、プライマリ クラスタ ノード (OVO のインストールを開始した物理クラスタ ノード) に戻り、クラスタ アドミニストレータを起動します。OVO グループ、および OVO データベースをホスティングする MS SQL グループを、プライマリ クラスタ ノードに戻します。

## OVO クラスタの設定

### タスク 1: Windows ドメイン ユーザーの設定

次の条件に該当する場合は、OVO 管理サーバーの管理者とオペレータの Windows ユーザー アカウントを再作成します。

- 古い OVO 管理サーバーがローカル Windows ユーザーを使用していた、または
  - 新しい OVO 管理サーバーが、管理者とオペレータの Windows ユーザー アカウントの管理に別の Windows ドメインを使用する
- 1 ドメイン コントローラで、**Active Directory マネージャ**を起動し、表示を **[Active Directory ユーザーとコンピュータ]** に切り替えます。
  - 2 ユーザーの選択画面で **[新しいユーザー]** を選択し、OVO オペレータ用の Windows ユーザー アカウントを作成します。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: neutron.dom/Users

姓(L): John

名(F): Block      イニシャル(I):

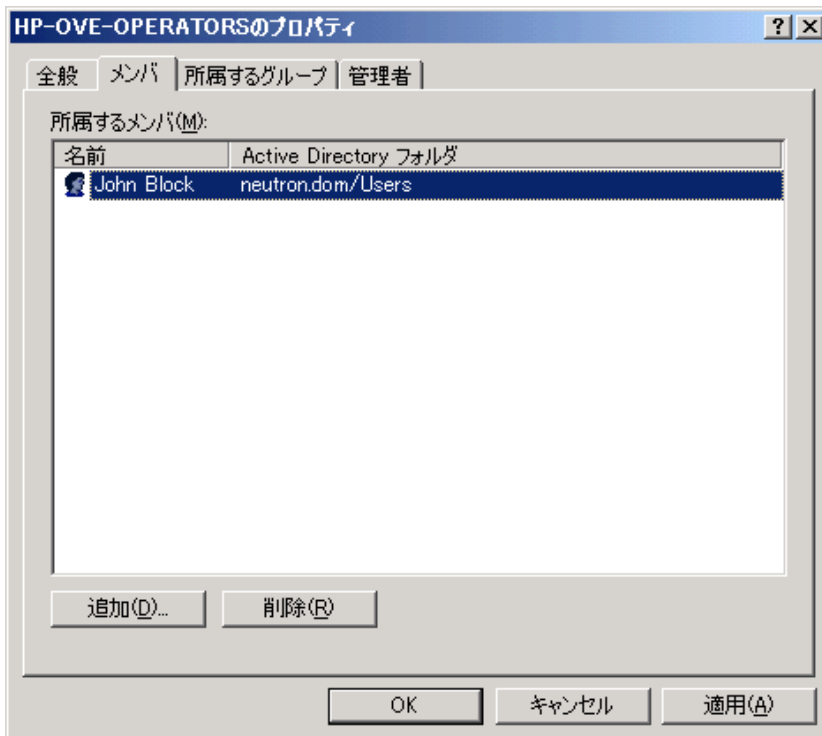
フルネーム(A): John Block

ユーザー ログオン名(U): johnb      @neutron.dom

ユーザー ログオン名 (Windows 2000 以前) (W): NEUTRON#      johnb

< 戻る(B)      次へ(N) >      キャンセル

- 次に、HP-OVE-OPERATORS グループのプロパティ設定画面で [メンバ] タブを選択し、ユーザーを HP-OVE-OPERATORS グループに追加します。移行するすべての OVO 管理者とオペレータについて、この手順を繰り返します。



## タスク 2: 自動配布を抑制するレジストリ キーの設定

自動配布を抑制しない場合、ポリシー管理によって新しいノードへのポリシーの配布が試みられる可能性があります。新しい管理サーバーは、まだこの新しいノードの管理を承認されていないため、配布ジョブは失敗します。自動配布を抑制するには、次のように操作します。

- コマンド プロンプトを表示し、次のコマンドを実行して OVO を停止します。  
**vpstat -3 -r STOP**
- 並列移行ツールが格納されているディレクトリに移動し、バッチ ファイル ADEPOFF.bat を実行します。

- コマンドプロンプトに戻り、次のコマンドを実行して OVO を起動します。  
`vpstat -3 -r START`

### タスク 3: クラスタ化された管理サーバーへの設定データのアップロード

#### cscript をデフォルト スクリプト ホストとして設定

デフォルトのスクリプト ホストを `cscript.exe` に設定します。これにより、スクリプトは、進捗状況の表示にポップアップ メッセージ ボックス ウィンドウではなく、コンソール出力を使用するようになります。スクリプトは、状態や進捗に関する多数のメッセージを生成します。これを、ツール出力またはコンソール メッセージの注釈として表示できます。

コマンドプロンプトで `cscript /h:cscript` を実行して、`cscript.exe` をサーバーのデフォルト スクリプト ホストにします。

#### 移行ツール OVOW\_upl\_conf.vbs



#### OVOW\_upl\_conf.vbs ツールの前提条件のチェック

このユーティリティを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- OVO データベースがリモート データベースである場合は、データベースへのアクセスに必要な `sqldmo.dll` が OVO サーバーにインストールされているかどうかを調べます。
  - `-sqldmo` オプションを指定して、`OVOW_upl_conf` を呼び出します。
  - SQL-DMO がインストールされている場合は、そのまま操作を続けます。
  - SQL-DMO がインストールされていない場合は、次のように操作します。
    - `bin` サブディレクトリに移動します。
    - `regsvr32` を使用して、用意されている `sqldmo.dll` を登録します。  
`regsvr32 sqldmo.dll` のように呼び出します。
    - 次に、`OVOW_upl_conf -sqldmo` を再実行し、SQL-DMO が使用可能になったことを確認します。
- このユーティリティを実行するユーザーは、OVOPS SQL Server インスタンスの管理者グループのメンバーである必要があります。

## OVOW\_upl\_conf.vbs の使用

- 1 事前にダウンロードした設定データを、アクティブ クラスタ ノード (たとえば、c:\temp\ConfigDir ディレクトリ) にコピーします。ディレクトリパスにはスペース (空白) 文字は使用できません。
- 2 OVOW\_upl\_conf.vbs を使用して、設定データをアップロードします。  
OVOW\_upl\_conf.vbs c:\temp\OVOWConfigDir

表 11 ツールのオプションとパラメータの説明

パラメータ	< インポート ディレクトリ >
コメント	管理サーバーの設定データを格納するディレクトリを指定します
オプション	[ ]
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オプションが指定されていない場合、すべての設定データがアップロードされます</li> <li>• OVO の単一システムからクラスタへの移行は、通常はこの方法で行われます</li> </ul>
オプション	[-c]
コメント	モデル設定のインポート
オプション	[-p]
コメント	ポリシーとポリシー グループのインポート
オプション	[-a]
コメント	ポリシー割り当てのインポート
オプション	[-r]
コメント	レジストリ キーのインポート
オプション	[-f]
コメント	ファイルシステム設定データのインポート
オプション	[-m]

表 11 ツールのオプションとパラメータの説明

パラメータ	<インポート ディレクトリ>
コメント	メッセージのインポート
オプション	[-sqldmo]
コメント	SQL Server データベースへのアクセスに必要な SQL-DMO DLL がローカル マシンにインストールされているかどうかを調べます

#### タスク 4: OVO ユーザー ロールのアップロード

前にダウンロードした <user-roles.xml> XML ファイルを新しい OVO 管理サーバーにコピーし、次のコマンドを使用して OVO ユーザー ロールをアップロードします。

```
ovpmutil CFG USR UPL <user-roles.xml>
```

OVO ユーザー ロールに対する Windows ユーザーの割り当ては、当該ユーザーが新しい OVO 管理サーバーにおいて既知かどうかに関係なく、新しい OVO 管理サーバーに移行されます。ユーザーが未知の場合、OVO ユーザー ロールエディタの [ユーザー] タブの [ユーザー名] プロパティには [Unknown Account] と表示されます。これらの不明なユーザーは、削除のうえ、代替りのユーザー アカウントに置き換える必要があります。

不明なユーザーを置き換えるには、新しい OVO 管理サーバーでコンソールを開いてユーザー ロールエディタを起動します。それぞれのユーザー ロールごとに、ユーザー ロールを選択して [プロパティ] をクリックし、[ユーザー ロールプロパティ] ダイアログを開きます。不明なユーザー アカウントがないかどうかチェックし、見つかった場合には適宜変更します。

#### タスク 5: Reporter 設定データのアップロード



このセクションは、完全バージョンの Reporter だけでなく、Reporter Light にも該当します。


OVO 7.5 システムへのパッケージ、レポート、データベースのインポートには、OVR\_upl\_conf\_db.vbs スクリプトを使用します。このスクリプトを呼び出す前に、OVR\_dnl\_conf\_db.vbs を使用してエクスポートしたファイルを、OVO 7.5 システムにコピーしておきます。ダウンロード データを格納したフォルダの場所は、パラメータとしてスクリプトに渡されます。

このスクリプトは、自動的に次の処理を行います。

- **Reporter** データベースを 7.5 システムにインポートします。このとき、7.5 システムに存在する古いデータベースは削除されます。
- 7.5 システムに `.srp` ファイルをコピーします。既存の `.srp` ファイルの上書きも選択できます。
- 7.5 システムにレポートをコピーします。既存のレポート テンプレートの上書きも選択できます。
- **newdb** を実行して、移行後のデータベースを 3.6 互換にします。OVO とデータベースを別のマシンで実行する場合は、データベースが稼動しているマシンに `newdb.exe` が存在しないため、アップロード時に `newdb` を起動できません。

### 重要な注記

- 1 OVO 7.5 は Crystal 10 レポート テンプレートを使用し、OVO 7.21 は Crystal 8.5 レポート テンプレートを使用します。バージョン 8.5 などの古い Crystal を使用して作成したテンプレートには、下位互換性の問題があります。古いテンプレートが存在する場合、アップロード時にテンプレートを上書きするかどうかを確認されます。
  - a すべてのテンプレートを上書きする場合は、**[すべて]** を選択します。
  - b 現在のテンプレートを上書きする場合は、**[はい]** を選択します。
  - c 現在のテンプレートを上書きしない場合は、**[いいえ]** を選択します。

 いかなる場合も、7.5 のレポート テンプレートを 7.21 のテンプレートで上書きしないでください。7.5 に存在しないカスタム テンプレートだけを上書きします。これらのカスタム テンプレートを CR 10 互換にするには、修正が必要です。CR 10 の問題については、リリース ノートを参照してください。
- 2 このスクリプトは、データベースへの接続に Windows 認証を使用します。ログインしたユーザーがデータベースへのアクセス権を持っていない場合、スクリプトの実行は失敗します。
- 3 `OVR_up1_conf_db.vbs -d` を呼び出して Reporter データベースをアップロードする前に、Reporter サービスと OVO サービスを停止する必要があります。クラスタ アドミニストレータを起動して、OVO グループをオフラインにしてください。
- 4 Reporter データベースのインポート中は、Reporter データベースへのアクティブな接続は存在できません。接続が存在する場合、インポートは失敗します。データベースのインポート前に、Reporter データベースにアクセスするすべてのプロセスを中止または終了してください。

- 5 OVO DB ユーザー パスワードは、ovrpwdencrypt.exe ツール (%OvInstallDir%\bin\ovrpwdencrypt.exe) を使用して変更できます。新しい Reporter データベース内のパスワードが、古い Reporter データベース内のパスワードと一致しない場合は、パスワードの変更が必要です。
- 6 クラスタ アドミニストレータを起動して、OVO グループをオンラインに戻します。

### 移行ツール OVR\_upl\_conf\_db.vbs

このツールは、事前に設定ディレクトリに保存した Reporter 設定データをアップロードします。また、OVR\_dn1\_conf\_db.vbs を使用して保存した Reporter データベースを復元します。

**表 12 ツールのオプションとパラメータの説明**

パラメータ	"< インポート ディレクトリ >"
コメント	OVO Reporter の設定データを格納するディレクトリを指定します。ディレクトリ名は、二重引用符で囲む必要があります。
オプション	[-p]
コメント	パッケージとレポート テンプレートのインポート
オプション	[-d]
コメント	レポート データベースのインポート。このオプションは、Reporter データベースが稼動するマシンでツールを実行する場合にのみ使用できます。OVO がリモート データベース サーバーを使用している場合、または OVO と OVO Reporter データベースが物理的に異なる ノードで稼動している可能性がある、クラスタ環境で OVO が実行されている場合は注意が必要です。  このオプションを指定して OVR_upl_conf_db.vbs を呼び出す場合は、事前に Reporter サービスを停止する必要があります。
オプション	[-v]
コメント	詳細モード



- OVO サーバーと Reporter データベースが同一システムで稼動する場合は、ユーティリティを次のように実行します。  
"OVR\_upl\_conf\_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -p -d"
  - OVO がリモート データベースまたはクラスタ環境にインストールされている場合や、OVO と OVO データベースが現在別のノードで稼動している場合など、OVO サーバーと Reporter データベースが異なるシステムで稼動する場合は、OVR\_upl\_conf\_db.vbs を 2 回呼び出す必要があります。
    - まず、OVO サーバーで実行し、Reporter 設定データをインポートします。  
"OVR\_upl\_conf\_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -p"
    - 次に、Reporter データベースが稼動するサーバーで実行し、Reporter データベースをインポートします。  
"OVR\_upl\_conf\_db.vbs "c:\OVOReporterConfig" -d"
- OpenView データベース ユーザーのパスワードが求められる場合があります。このパスワードは、デフォルトでは「openview」です。OVO サーバーに戻り、<%OVInstallDir%>\bin\newdb.exe ツールを実行してください。

#### タスク 6: 古い管理サーバー ノードの削除

古い管理サーバー ノードは、移行ユーティリティによって新しい OVO 7.5 サーバーのノード グループに移行されました。[ノード]ビューから古い管理サーバーノードを削除します。

#### タスク 7: エージェントの切り替え

次に、管理ノードのエージェントが古い OVO 管理サーバーではなく、新しいクラスタ管理サーバーを使用するように設定する必要があります。opcragt -primmgr -all のように、コマンドライン ツール opcragt を呼び出します。

コマンドが正しく完了すれば、すべての管理ノードがクラスタ化された OVO 管理サーバーに対してレポートを行うようになります。

## タスク 8: 自動配布の有効化

自動配布を有効化するには、次のように操作します。

- コマンド プロンプトを表示し、次のコマンドを実行して OVO を停止します。  
**vpstat -3 -r STOP**
- 並列移行ツールが格納されているディレクトリに移動し、バッチ ファイル ADEPON.bat を実行します。
- コマンド プロンプトに戻り、次のコマンドを実行して OVO を起動します。  
**vpstat -3 -r START**

## タスク 9: 新しい管理サーバー ノードへのポリシーの再配布

古い管理サーバーのすべてのポリシー割り当ては、移行ユーティリティによって新しい管理サーバー ノードに移行されます。これは、管理サーバーの個々のポリシー割り当てを維持するために必要です。

しかし、移行ツールはポリシー割り当てを OVO データベースに移行するだけで、それを管理サーバーに配布しないため、新しい管理サーバー ノードで **[すべてのポリシーとパッケージの再配布]** を実行する必要があります。

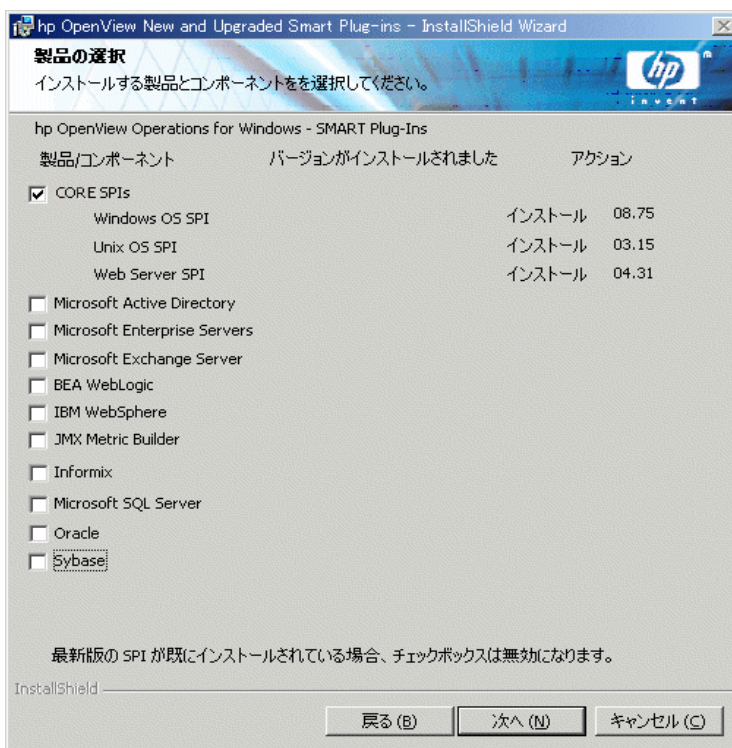


[すべてのポリシーとパッケージの再配布] は、管理サーバー自体に対してのみ実行します。

## タスク 10: OVO SPI のインストール

次に、コア SPI と、古い OVO サーバーにインストールされていた、その他すべての SPI をインストールします。

- 1 SPI CD 2005.1 を開き、setup.bat を実行します。
- 2 インストーラ ウィンドウの製品選択パネルが表示されるので、**[CORE SPIs]** を選択します。
- 3 新しい OVO 7.5 サーバーへのインストールが必要な、その他の SPI について、記録しておいた設定情報を確認します (42 ページを参照)。





# コア SPI およびその他の製品の統合

## コア SPI の移行

OVO 7.5 へのアップグレードを始める前に、インストールしている SPI (Smart Plug-in) に関するドキュメントを読み、その指示に従ってください。次に示すアップグレードおよび移行の手順は、置換、並列のどちらの移行にも適用されます。

## Windows OS SPI

Windows OS SPI のオンライン ヘルプには、この SPI に付属するすべての新しいポリシー、ツール、レポートに関する説明が含まれています。Windows OS SPI のリリース ノートには、OVO 7.5 でリリースされた新規ポリシーと SPI のバージョン、変更されたポリシー、削除されたポリシーが記載されています。

次の表は、OVOW 7.5/2005.1W SPI CD に収録されている WinOSSPI バージョン B.08.75 へのアップグレードおよび移行が可能なバージョンを示しています。

**表 13 WinOSSPI B.08.75 へのアップグレードおよび移行が可能なバージョン**

出荷媒体	バージョン	SPI	バージョン
OVO	B.07.20	Windows SPI	B.08.20
OVO	B.07.21	Windows SPI	B.08.20
SPICD	2004.1W	Windows SPI	B.08.30
SPICD	2004.2W	Windows SPI	B.08.33

Windows OS SPI によって検出される Active Directory サービス インスタンスは、並列移行時または置換アップグレード時に管理サーバーから削除されます。Windows OS SPI のインストールプロセスでは、新規バージョンのサービス検出ポリシー、および Microsoft Windows インストールメンテーションがすべての Windows ノードに自動的に配布されます。Windows ドメイン コントローラ ノードでサービス検出が実行されると、新しい Active Directory サービス モデルに基づいて、新しいインスタンスが作成されます。

移行後のすべての Windows ノードには、次の項目が配布されている必要があります。

- Microsoft Windows インストールメンテーション
- Microsoft Windows/Auto-Discovery/Auto-Deploy ポリシー グループ

Windows OS SPI のアップグレードと移行に関する追加情報については、Windows OS SPI のリリース ノート (WindowsOS ReleaseNotes.html) を参照してください。

## UNIX OS SPI

次の表は、OVOW 7.5/2005.1W SPI CD に収録されている UNIX OS SPI バージョン B.03.15 へのアップグレードおよび移行が可能なバージョンを示しています。

**表 14 UNIX OS SPI B.03.15 へのアップグレードおよび移行が可能なバージョン**

出荷媒体	バージョン	SPI	バージョン
OVO	B.07.20	UNIX OS SPI	B.02.01
OVO	B.07.21	UNIX OS SPI	B.02.01
SPICD	2004.1W	UNIX OS SPI	B.02.53
SPICD	2004.2W	UNIX OS SPI	B.02.53
パッチ	OVOW_00133	UNIX OS SPI	B.02.53

UNIX OS SPI によって検出されるサービス インスタンスは、並列移行時または置換アップグレード時に管理サーバーから削除されます。UNIX OS SPI のインストールプロセスでは、新規バージョンのサービス検出ポリシー、および UNIX OS SPI のインストルメンテーションがすべての UNIX および Linux ノードに自動的に配布されます。UNIX および Linux ノードでサービス検出が実行されると、新しい UNIX OS SPI サービス モデルに基づいて、新しいインスタンスが作成されます。

移行後のすべての UNIX および Linux ノードには、次の項目が配布されている必要があります。

- UNIX OS SPI のインストルメンテーション
- SPI for UNIX OS/Auto-Discovery/OS SPI Discovery ポリシー グループ

UNIX OS SPI のアップグレードと移行に関する追加情報については、UNIX OS SPI のリリース ノート ([UnixOS ReleaseNotes.html](#)) を参照してください。

▶ 次のアップグレードおよび移行は、直接実行することはできません。

- WinOSSPI バージョン B.07.00 (OVOW B.07.10 とともに出荷 ) から現行バージョンの B.08.75 (OVOW 7.5 とともに出荷 )
- UNIX OS SPI バージョン B.01.50 (OVOW B.07.00 とともに出荷 ) および B.01.53 (OVOW B.07.10 とともに出荷 ) から現行バージョンの B.03.15 (OVOW 7.5 とともに出荷 )

アップグレードまたは移行を開始する前に、上記バージョンの SPI をアンインストールするか、現行バージョンへのアップグレードが可能なバージョンに SPI をアップグレードする必要があります。

## Web サーバー SPI

Web サーバー SPI (WSSPI) の置換アップグレードと並列移行は、次のバージョンでのみサポートされます。

表 15 サポートされるバージョン

出荷媒体	OVOW のバージョン	WSSPI のバージョン
OVOW	B.07.20	B.03.71
SPI CD	B.07.20	B.04.01

Web サーバー SPI は、自動配布をサポートしていません。アップグレードが完了したら、次の項目をすべての管理ノードに配布する必要があります。

- WSSPI、Monitors、Commands 内のインストルメンテーション ファイル
- SPI for Web Servers ポリシー グループ

WSSPI のアップグレードに関する追加情報については、Web サーバー SPI のリリース ノート (WebServer ReleaseNotes.html) を参照してください。

▶ コア以外の SPI のアップグレードの詳細については、各 SPI のアップグレード ガイドを参照してください。



## Reporter の統合

Reporter 3.6 ( クラスタ ) と OVO 7.5 ( クラスタ ) は、同一クラスタに存在できません。同一クラスタにインストールする場合は、両者を同じクラスタグループにインストールする必要があります。クラスタでは、Reporter より先に OVO をインストールする必要があります。Reporter を先にインストールした場合、OVO のインストールは失敗します。

▶ OVO 7.5 と Reporter 3.5 の組み合わせはサポートされません。

Reporter のアップグレードの詳細については、Reporter のリリース ノートを参照してください。


▶ アクティブでないクラスタ ノードでは、Reporter を使用してレポートを作成することはできません。


!! Crystal 10 には、それより前のバージョンの Crystal との間に下位互換性の問題があります。具体的な問題点と、その解決方法については、Reporter のリリース ノート ( 既存の Crystal 8.5 テンプレートに関する問題点と対応方法 )、および OVO の Readme ( 既存の Crystal 8.5 テンプレートに関する問題点と対応方法 ) を参照してください。

## NDAOM のアップグレード

従来のバージョンから NDAOM B.02.00 にアップグレードするときは、最初に従来のバージョンをアンインストールする必要があります。NDAOM の現行バージョンをインストールする前に、次の操作を行ってください。

- 1 次のいずれかの方法で、管理ノードから NDAOM をアンインストールします。
  - 管理サーバーで、NDAOM-Admin ツールグループにある NDAOM 削除サブエージェント (Windows) またはツール (UNIX) を使用します
  - コマンドラインで `call ovnwlkmon -remove_sa` を実行します
  - 管理ノードのコマンドラインから `remove_nwagt` スクリプトを直接呼び出します
- 2 **[プログラムの追加と削除]** を使用して、次の操作を行います
  - a 管理サーバーから、Problem Diagnosis の NDAOM/ スタンドアロンバージョンをアンインストールします。
  - b 管理サーバー、または HP OpenView Reporter システムから NDAOM Reporter パッケージをアンインストールします。NDAOM の新しいバージョンは、HP OpenView Reporter との統合を提供しません。

 NDAOM をアンインストールしたら、本書で説明するアップグレードと移行の手順に従って、OVO を現行バージョンの 7.5 にアップグレードまたは移行します。移行が完了したら、NDAOM の新規バージョンをインストールします。
- 3 NDAOM のインストールと設定の手順については、OVO のオンラインヘルプで「Network Diagnosis Add-On Module」の「Installing NDAOM on managed notes」を参照してください。

 NDAOM をインストールする前に、使用する NNM 7.5 サーバー (HP-UX、Solaris、または Windows) に次の NNM パッチをインストールする必要があります。

  - PHSS\_33134 - HP-UX
  - PSOV\_03394 - Solaris
  - NNM\_01086 - Windows

- 4 NDAOM をインストールする前に、最新の更新について OVO スタートアップ CD の \Documentation\Releasenotes ディレクトリにある NDAOM のリリース ノート (NDAOM\_ReleaseNotes.html) を参照してください。

## NNMA

製品の説明、およびインストールの要件と手順については、オンライン ヘルプで次の項目を参照してください。

- 「NNM Adapter」の「HP OpenView NNM Adapter for OVO for Windows」
- 「NNM Adapter」→「NNM Adapter のインストール」の「HP Overview NNM Adapter のインストールの概要と要件」

## SAP 用の SPI

OVO 管理サーバーのバージョン 7.5 への置換アップグレードは、SAP 用にインストールされている SPI 「SAP R/3 Login information' ConfigFile policy 'global\_r3itosap」に影響します。このポリシーの配布は常に失敗します。

このため、SAP の監視設定を変更したり、SAP 用 SPI が監視する追加 SAP インスタンスを設定することができません。ポリシーの再配布、またはエージェントパッケージの再インストールを試みると、SAP の監視機能が失われます。

この影響は、アップグレードした OVO 7.5 管理サーバーと、バージョン B.08.70 (または、それよりさらに古い B.08.11) の古い SAP 用 SPI の組み合わせでのみ発生します。

- SAP 用の SPI を使用していない場合は、影響はありません。
- 管理サーバーのアップグレード時に SAP 用の SPI をバージョン B.09.01 にアップグレードすれば、この影響を回避できます (この対応をお勧めします)。

詳細については、SPI-CD1 に収録されている SAP 用 SPI のリリース ノート (\Documentation\Releasenotes\SAP\_ReleaseNotes.html) を参照してください。



# OVO 7.0 からのアップグレード

## アップグレード プロセス

OVO 7.0 から OVO 7.5 にアップグレードするには、まず、OVO 7.21 にアップグレードし、それから OVO 7.5 へのアップグレードを行います。次に、7.21 へのアップグレード手順を示します。

- ▶ OVO for Windows 7.21 ソフトウェアは、サポート契約を交わしている場合は、サポート Web サイトからダウンロードできます。サポート契約を交わしていない場合でも、サポートが終了する 2006 年初頭までであれば、HP から購入できます。入手不可能になってしまっている場合は、HP のサポートまでご連絡ください。

### タスク 1: データのバックアップ

後で必要になった場合に復元できるように、使用しているシステムのデータをバックアップしてください。OVO 7.5 スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリ内の Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。

### タスク 2: ハードウェアとソフトウェアの要件のチェック

OVO 7.5 の管理サーバーとコンソールに関するハードウェアとソフトウェアの要件については、『HP OpenView Operations for Windows インストールガイド バージョン 7.5』を参照してください。

### タスク 3: Network Node Manager アダプタの削除

NNM (Network Node Manager) サーバーに配布された NNM アダプタのコンポーネントは、OVO 管理サーバーをアップグレードする前に配布解除 (アンインストール) する必要があります。

OVO 管理サーバーと、NNM サーバー上の OVO エージェントをアップグレードした後で、NNM アダプタ コンポーネントを再インストールします。『HP OpenView Operations/Performance for Windows インストール ガイド バージョン 7.21』の第 5 章を参照してください。

### タスク 4: SPI の準備

SPI (Smart Plug-in) の設定データの保存方法、SPI のアップグレード方法については、OVO 7.21 の CD 1 の \Documentation ディレクトリにある、SPI のドキュメントを参照してください。各 SPI でアップグレード方法が異なります。

次のリストは、各 SPI と、それに対応するドキュメントを示しています。

名前	アップグレード方法を説明するドキュメント
SPI for Windows Operating System	SPI_WinosReadMe.txt
SPI for UNIX Operating System	osspi_windows.pdf
SPI for Web Servers	SPI_webserversReadMe.txt
SPI for Microsoft Active Directory Server	ADSPI_Config.pdf、第 2 章
SPI for Microsoft Exchange Server	SPI_ExchangeReadMe.txt
SPI for Microsoft Enterprise Servers	SPI_EnterpriseServersReadMe.txt
SPI for SAP	SAPSPIConfig.pdf
SPI for BEA WebLogic Server	wlsspi_config.pdf
SPI for IBM WebSphere	wbsspi_config.pdf
SPI for Databases	DBSPIconfig.pdf、第 2 章
Network Diagnosis Add-on Module	NDAOM_OnlineHelp.pdf

### タスク 5: 管理ノードからの旧エージェントの削除

TRU64 または Linux を使用している場合

- 新しいエージェントをインストールする前に、管理ノードから旧エージェントがアンインストールされていることを確認してください。TRU64 ノードでは、旧エージェントをアンインストールした後に、管理ノードに /usr/opt/OV および var/opt/OV ディレクトリがないことを確認してください。新しいエージェントをインストールする前にこの 2 つのディレクトリを削除します。

HP-UX、Solaris、または AIX を使用している場合

- **opc\_inst** スクリプトを使用してインストールを開始する前に、**opcagt -kill** コマンドを実行してエージェントを停止してください。

## タスク 6: レポート データベースのバックアップ

万一の場合に備えて、アップグレードする前にレポート データベースをバックアップしてください。HP OpenView Reporter 製品を購入した場合、『Reporter コンセプト ガイド』の「拡張トピック」にある、データベースのバックアップに関する指示に従ってください。Reporter 製品をインストールしていない場合は、OVO オンライン ヘルプ項目の「環境の管理」→「データベースの保守」→「データベースのバックアップ」の「レポート コンポーネント データベースのバックアップと復元」に記載されている指示に従ってください。

リモート コンソールを含む、開いているすべての OVO 7.0 コンソールを終了してください。

すべての MMC プロセスが稼動していないことを確認します。ovpmad が稼動している場合は終了します。



OVO for Windows で使用する MSDE データベースを SQL Server 2000 のいずれかのエディションにアップグレードした場合、OVOPS データベースのインスタンスを保持して OVO 7.21 へのアップグレードに使用するには、ユーティリティ プログラム (製品メディアに収録) を使用して OVO 7.0 のアンインストール ロジックを置き換える必要があります。製品 CD 1 の \Documentation\Whitepapers ディレクトリにある UninstallPatchREADME.txt ファイルに記載されている手順に従ってください。

## タスク 7: OVO 7.0 のアンインストール

- 1 OVO 7.21 へのアップグレードの準備として、OVO 7.0 をアンインストールする前に、管理サーバーに OVOW\_00003 パッチをインストールします。パッチに付属するインストール手順に従います。

パッチの入手方法は次のとおりです。

— [http://support.openview.hp.com/patches/patch\\_index.jsp](http://support.openview.hp.com/patches/patch_index.jsp) にアクセスします。

— **[browse by product version]** の **[please select a product]** ドロップダウン ボックスで製品を検索し、**[openview for Windows]** を選択します。

- [release a.07.00] の下の、[NT 4.X/Windows 2000] をクリックします。
  - 下にスクロールして **OVOW\_0003** を探し、[download patch now (1690K)] をクリックします。
- 2 一時フォルダから、たとえば、次のようにコマンドを実行して、サービス マップをダウンロードします。
- ```
C:\TEMP):ovpmutil cfg svc dnl <filename>
```
- この <filename> は、サービス マップのダウンロード先となるファイルの名前です。
- OVO 7.0 のアンインストール前にサービス マップをダウンロードしない場合、SPI サービス タイプに基づいて、すべてのサービスの再検出が必要になります。また、SPI サービス タイプに基づくカスタム (ユーザー作成の) サービスは削除されます。
- 3 リモート コンソールを含む、開いているすべての OVO 7.0 コンソールを終了します。
- 4 OVO サーバーで、[スタート] → [設定] → [コントロール パネル] → [プログラムの追加と削除] を選択します。[HP OpenView operations/performance for Windows] を選択します。[変更] を選択します。[削除] を選択して、すべてのソフトウェアをアンインストールします。
- これにより、サーバーから OVO 7.0 とすべての SPI がアンインストールされます。

## タスク 8: OVO 7.21 ソフトウェアのインストール

- 1 『HP OpenView Operations/Performance for Windows インストール ガイド バージョン 7.21』に記載されている手順を参照し、OVO 7.21 メディアを使用して、サーバーにソフトウェアをインストールします (アップグレードの準備として、OVO 7.0 がアンインストールされたかどうかを確認されます)。
- インストール中に、インストールディレクトリとデータディレクトリの入力を求められた場合、OVO 7.0 で使用していたパス名を使用します。セキュリティ設定ダイアログでは、HP-OVE-User アカウントと HP-OVE-GROUP アカウントに同じ値を使用します。
- 2 コンソールの [スタート] メニューから NNM Adapter 7.21 を再インストールします。『HP OpenView Operations/Performance for Windows インストール ガイド バージョン 7.21』の第 5 章を参照してください。
- 3 OVO 7.21 インストール メディアから、現在使用している SPI と同じ SPI を再インストールします。個々の SPI に関する詳細なアップグレード情報については、それぞれのマニュアルを参照してください。
- サービス マップをアップロードする前に、OVO 7.0 で使用しているものと同じ SPI を再インストールする必要があります。再インストールしない場合、アップグレード前と同じサービスがサービス マップに含まれません。



- 4 OVO 管理者として OVO コンソールを起動します。左ペイン ( ツリー ) で管理サーバー ノードを右クリックし、**[すべてのタスク]** → **[すべてのポリシーとパッケージの再配布]** を選択して、サーバーにエージェントのすべてのポリシーを再インストールします。

- 5 OVO 7.21 と SPI をインストールしたら、事前にダウンロードしておいたサービス マップをアップロードします。一時フォルダから、たとえば、次のようにコマンドを実行します。

```
C:\TEMP):ovpmutil cfg svc upl <filename>
```

この <filename> は、アップグレード前にサービス マップのダウンロードに使用したファイルの名前です。

Linux システムでは、古いエージェントをアンインストールしてから新しいエージェントをインストールします。

### タスク 9: すべてのリモート コンソールのアップグレード

すべてのリモート コンソールから OVO 7.10 ソフトウェアをアンインストールします。

- 1 **[スタート]** → **[設定]** → **[コントロール パネル]** → **[プログラムの追加と削除]** を選択します。
- 2 **[HP OpenView operations performance for Windows]** を選択します。
- 3 **[削除]** を選択して、ソフトウェアをアンインストールします。

『HP OpenView Operations for Windows インストール ガイド バージョン 7.21』を参照し、OVO 7.21 メディアの使用手順に従って、すべてのリモート コンソールにソフトウェアをインストールします。

### タスク 10: Windows 管理ノードのエージェントのアップグレード

#### Prepare Windows Agent Upgrade ツールの実行

このツールは、古いエージェントを削除せずに、新しいエージェントを上書きインストールして、システムを変更します。システム上の既存の設定データ ( ポリシー )、インストールメンテーション、パフォーマンス データは維持されます。各管理ノードで、このツールを 1 回実行する必要があります。

#### コンソールからのエージェントのアップグレード

エージェント パッケージのみをアップグレードする方法は次のとおりです。

- 1 コンソール ツリーで、**配布パッケージ**のアイコンをクリックします。
- 2 エージェントをインストールするノードまたはノードグループに、**OpenView Operations Agent** 配布パッケージをドラッグします。

エージェント パッケージをアップグレードし、ポリシーを再配布する方法は次のとおりです。

- 1 再配布するノードを右クリックします。
- 2 **[すべてのタスク]** → **[すべてのポリシーとパッケージの再配布]** を選択します。

このコマンドは、選択した管理ノードにインストールされているパッケージ (エージェント) とポリシーを調べるため、インベントリを照会し、その後、最新バージョンのエージェントとポリシーを再配布します。

### 手動によるエージェントのアップグレード

OpenView Operations パッケージは、CD 3 の Windows フォルダに収録されています。管理サーバーをインストールすると、`<%OVInstallDir%>\packages\Windows\Windows_manual` ディレクトリにパッケージが保存されます。

次の操作を行います。

- 1 OVO Agents CD から、**Windows\setup.exe** を実行します。
- 2 **[インストール先のフォルダ]** 画面で、デフォルトのインストール先フォルダを使用するか、エージェントのインストール先フォルダを選択します。選択したインストール先は、今後、他の OpenView 製品のデフォルト フォルダとなります。一度設定すると、使用しているすべての OpenView 製品をアンインストールしない限り、変更することはできません。この OpenView 製品には、エージェントも含まれます。

デフォルトのインストール先フォルダは、次のとおりです。

```
<ProgramFilesFolder>\HP OpenView\  
および  
<ProgramFilesFolder>\HP OpenView\Data
```

この `<ProgramFilesFolder>` は、インストール先マシンの、プログラムファイルのデフォルトの親フォルダです。

- 3 **[エージェントの設定]** 画面で、エージェントの管理サーバーのホスト名と、エージェント サービスが使用するアカウント名を設定します。

**[管理サーバー ホスト]** テキスト ボックスに、このノードを管理する管理サーバーの完全修飾名 (たとえば、potato.veg.com) を入力します。

**[エージェント サービスの実行]** ラジオ グループで、**[HP ITO Account]** または **[LocalSystem]** を選択します。

旧バージョンでは、ノードに 2 つのローカル ユーザー アカウント (HP ITO Account および opc\_op アカウント) が作成され、ランダムなパスワードが生成されました。OVO 7.21 では、HP ITO Account と opc\_op アカウントはノードに作成されません。その代わりに LocalSystem アカウントがデフォルトで使用されます。

旧バージョンで使用していた HP ITO Account をアップグレードする場合は、このアカウントを旧バージョンと同じ状態で使用できます。アップグレード後も、ノード上のユーザーはそのまま維持されます。HP ITO Account と LocalSystem アカウントの詳細は、『HP OpenView Operations/Performance for Windows インストールガイド バージョン 7.21』を参照してください。

エージェントのインストール後、Modify モードを呼び出して、管理サーバー ホスト名やエージェント サービスアカウントを変更できます。

- 4 **[インストール]** をクリックします。インストールが開始されます。
- 5 インストール ログ ファイルを開き、インストール完了時の状態を確認します。ログ ファイルは、<TempFolder> に保存されます。この <TempFolder> は、インストールを行ったマシンの「temp」フォルダを示します。通常は、C:\Documents and Settings\\Local Settings\Temp です。

ログ ファイルは、次のファイル名ルールに従って、インストールのたびに作成されます。

```
AgentInstallResults.txt - 新規、変更、修復インストール
AgentUnInstallResults.txt - アンインストール
AgentUpgradeResults.txt - アップグレード インストール
```

新しいログ ファイルの作成前に、ファイル名に番号を追加して、従来のログ ファイルが保存されます。

- 6 管理サーバーのコンソール ツリーで、ノードを右クリックし、**[すべてのタスク]** → **[パッケージの同期]** を選択します。これにより、エージェントのバージョンを反映して、パッケージ インベントリが更新されます。

## タスク 11: UNIX 管理ノードのエージェントのアップグレード

OVO for Windows 7.21 では、UNIX エージェントのインストールとアップグレードは手動で行います。必要な手順は、エージェント パッケージのテキスト ファイルに記載されています。次のディレクトリを参照してください。

```
<installation directory>/packages/<supported operating
system>/<supported version(各バージョンでパッケージが異なる場合)>
アップグレード時に、ノードに対応するパッケージのテキスト ファイルをコピーし、参照できます。
```

OpenView Operations パッケージは、CD 3 の <supported operating system>/<supported version> フォルダに格納されています。管理サーバーをインストールすると、パッケージは次のディレクトリに保存されます。

```
<InstallDir>\packages\<supported operating system>\
<supported version>
```

次の操作を行います。

- 1 適切な管理者権限を持つユーザーとしてログインしていることを確認します。
- 2 管理サーバーが、すべてのハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認します。満たしていない場合は、適合するようにノードを更新します。すべてのノードに関する要件は、『HP OpenView Operations/Performance for Windows インストールガイド バージョン 7.21』に記載されています。
- 3 OpenView Operations 管理サーバーのファイル `opc_pkg.Z`、`comm_pkg.Z`、`perf_pkg.Z`、`svcdisc_pkg.Z`、`opc_inst` を、管理するコンピュータの `/tmp` ディレクトリにコピーします。これらのファイルは、CD 3 の `<supported operating system>/<supported version>/` ディレクトリ、または、管理サーバーの `<installation directory>/packages/<supported operating system>/<supported version>/` ディレクトリに保存されています。

ftp を使用してファイルをコピーする場合は、バイナリ モードを使用してください。

- 4 `chmod +x /tmp/opc_inst` コマンドを実行して、スクリプト を実行可能にします。
- 5 `/tmp/opc_inst` コマンドを使用して、エージェント をインストールします。
- 6 `/opt/OV/bin/OpC/install/opcactivate -s <VP_mgt_server> -cs <server_codeset> -cn <agent_codeset> -sv` コマンドを実行して、エージェント を起動します。

英語のシステムでは、サーバーとエージェントの文字コード セットは `utf8` です。OVO for Windows 管理サーバーへのレポート対象となる、英語システム以外のノードが存在する場合は、使用可能な文字コード セットをオンライン ヘルプで確認してください。

- 7 管理サーバーのコンソール ツリーで、ノードを右クリックし、[ **すべてのタスク** ] → [ **パッケージの同期** ] を選択します。これにより、エージェントのバージョンを反映して、パッケージ インベントリが更新されます。
- 8 UNIX ノードに配布されているポリシーを記録します。
- 9 UNIX 管理ノードから古いエージェントをアンインストールします。
- 10 新しいエージェントをインストールしたら、古いエージェントによって UNIX ノードに配布されたポリシーを手動で配布します。

# Windows 2000 Server から Windows Server 2003 への管理サーバーのアップグレード

ここでは、Windows 2000 Server SP3/SP4 を Windows Server 2003 にアップグレードする方法について説明します。ここで説明する手順は、7.21 へのアップグレードと 7.5 へのアップグレードの両方に適用されます。

▶ NT 4.0 にインストールした VPW 6.x から Windows Server 2003 へのアップグレードはできません。

アップグレードを実行する前に、システムをバックアップします。システムのバックアップと復元の方法については、スタートアップ CD の \Documentation\White Papers ディレクトリに保存されている Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。

## Windows 2000 Server から Windows Server 2003 への OVO 管理サーバーの置換アップグレード

- 1 データベース、ポリシー、インストールメンテーション、MMC ファイル、カスタム グラフィック定義をすべてバックアップします。
- 2 OVO 管理者として OVO コンソールを起動します。OVO for Windows 管理サーバーで稼動している OVO エージェントで、Windows Server 2003 システムに適用できないすべてのカスタム ポリシーを削除します。接頭辞が WINOSSPI (Smart Plug-in for Windows) のポリシーをすべて削除します。接頭辞が VP\_SM のポリシー (自己管理ポリシー) は、そのまま残しておきます。

- 3 OVO コンソールを終了し、Microsoft のドキュメントに従って、OVO for Windows 管理サーバーを Windows 2000 Server から Windows Server 2003 にアップグレードします。
- 4 オペレーティング システムをアップグレードしたら、OVO 管理者として OVO コンソールを起動します。ノード設定エディタを起動して、管理サーバー エージェントのノード プロパティを変更します。[システム] タブの [オペレーティング システム] フィールドを **[Windows Server 2003]** に、[バージョン] を **[5.2]** に変更します。ノード設定エディタを終了します。

ノード プロパティを Windows Server 2003 に変更すると、Windows Server 2003 システムに適用可能なすべての自動検出ポリシーが再配布されます。

自動配布と自動検出が完了すると、管理サーバー ノードが **[システム インフラストラクチャ] → [Windows] → [Windows Server 2003]** の下のノード マップに追加され、更新された WINOSSPI ポリシーが配布されます。

— WINOSSPI の HP Systems Insight Manager 統合機能を使用している場合は、管理サーバー エージェント ノードに

**WINOSSPI-HPSIM\_GetCertificateWhenServiceDiscovered** ポリシーを配布します。

— Unix OS SPI を使用している場合は、管理サーバー エージェント ノードに **OSSPI-AutoDeploy** ポリシーを配布します。

— NDAOM を使用している場合は、次のように操作します。

- **ovnwlkmon -remove\_sa** を使用して、管理サーバー エージェントをソース ノードとするネットワーク リンクを削除します。
- **ovnwlkmon -add** を使用して、リンクを追加します。
- **ovnwlkmon -deploy** を使用して、管理サーバー エージェントに NDAOM サブエージェント配布します。

これらのコマンドについては、OVO のオンライン ヘルプで「Network Diagnosis Add-On Module」を参照してください。

- 5 Windows 管理サーバー ノード用の OVO がまだノードとして **[システム インフラストラクチャ] → [Windows] → [Windows 2000]** の下に一覧表示されているので、サービス設定エディタを使用して、Windows 2000 サービス マップから管理サーバー エージェントを手動で削除する必要があります。

## ASP の有効化

Windows 2000 Server または Windows Server 2003 環境で Web コンソールを実行するには、管理サーバーで ASP (Active Server Page) を有効に設定する必要があります。Windows Server 2003 では、ASP はデフォルトでは無効です。

## OVPM アプリケーションへのアクセス

Windows Server 2003 では、アプリケーション レベルで権限を付与できます。アプリケーションの、[すべての不明な ISAPI 拡張] クラスおよび [すべての不明な CGI 拡張] クラスに対する、デフォルトの実行禁止フラグを変更しなければ、固有のセキュリティ制限を保持できます。また、OVPM アプリケーションに個別にアクセスする (デフォルトのフィルタをバイパスする) には、次の手順を実行します。

- 1 [スタート]メニューで **[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[管理]** を選択します。
- 2 [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] - [Web サービス拡張] に移動します。
- 3 右クリックし、**[新しい Web サービス拡張を追加]** を選択します。

- 4 **[追加]** ボタンをクリックし、OVPM アプリケーション %InstallDir%\HPOV\_IOPS\cgi-bin\Analyzer.exe および AnalyzerTest.exe を参照します。

両方のアプリケーションをリストに追加するには、適切なファイルの種類を選択し、それぞれのファイルを追加する必要があります。

- 5 **[ファイルの追加]** ダイアログの **[OK]** をクリックします。
- 6 適切な拡張名 (たとえば、HP OVPM) を指定します。



**[拡張の状態を許可済みに設定する]** ボックスにチェックマークを付けます。

- 7 **[OK]** をクリックし、[状態] が **[許可]** になっていることを確認します。
- 8 IIS を再起動し、OVO コンソールを終了して再起動します。OVPM のグラフが表示可能になります。





## A

ASP, 103

## C

Crystal 10, 49, 89

cscript, 38, 61

## H

HP ITO Account, 27, 99

## L

LocalSystem, 27

## M

MMC, 23

MSDE データベース , 22, 95

7.10 からのアップグレード , 23

## N

NDAOM, 15, 90, 102

NNM, 14

NNMA, 91, 94

アップグレードの概要 , 15

アンインストール , 22

再インストール , 29

## O

OVIS, 15

OVO 7.0 からのアップグレード , 93

OVO 7.2x のアップグレードの概要 , 13

OVO Agents CD, 26, 98

OVPM, 15, 103

## P

Prepare Windows Agent Upgrade ツール , 97

## R

Reporter 3.5, 14, 89

Reporter の設定 , 41

OVR\_dnl\_conf\_db.vbs, 41

OVR\_upl\_conf\_db.vbs, 49, 51

Reporter の統合 , 89, 90

## S

SBSM.bat, 17, 43

## 索引

### SPI

- OVO SPI のインストール , 57
- SAP 用の SPI, 91
- SPI のアップグレード , 18
  - コア SPI, 25, 57, 85
  - ドキュメント , 22, 94

### U

- UNIX, 28, 88, 90, 99, 100, 102
- UNIX OS SPI, 87

### W

- Web サーバー SPI, 88
- Windows 2000 から Windows Server 2003 へのアップグレード , 101
- Windows OS SPI, 85

### え

- エージェント
  - UNIX 管理ノードでのアップグレード , 26, 28
  - Windows 管理ノードでのアップグレード , 97
  - エージェントの切り替え , 52
  - エージェントの切り替え準備 , 33
  - 旧エージェントの削除 , 94
  - コンソールからのアップグレード , 26
  - 手動によるアップグレード , 26

### お

- お知らせ , 4

### く

- クラスタの設定 , 59

### さ

- サービス マップ , 23, 96
- サポート終了 , 4
  - OVO 7.5 後のサポート終了 , 4
  - OVO 7.5 でのサポート終了 , 4

### し

- 自動配布
  - 有効化 , 56
  - 抑制 , 45

### す

- すべてのポリシーとパッケージの再配布 , 56, 71

### せ

- 設定データ , 37
  - OVOW\_dnl\_conf.vbs, 39
  - OVOW\_upl\_conf.vbs, 46

### ち

- 置換アップグレード
  - OVO 7.10 または 7.2x から , 22
  - 7.5 クラスタ インストール , 12
  - 並列移行との違い , 11

### と

- ドメイン アカウントの設定 , 44

### は

- バックアップ , 21
  - システムのバックアップ , 11
  - レポート コンポーネント データベースのバックアップと復元 , 23

ハードウェアとソフトウェアの要件, 93, 21,  
100

パスワード, 51, 98

ovrpwdencrypt.exe, 51

パッチ

NNM\_01086 - Windows, 90

OVOW\_00003, 95

OVOW\_00050, 18

OVOW\_00075, 16, 18

PHSS\_33134 - HP-UX, 90

PSOV\_03394 - Solaris, 90

へ

並列移行, 31

7.0 から MS クラスタ, 18

7.10 から MS クラスタ, 18

7.2 から MS クラスタ, 16

OVO 7.21 から 7.5, 33

OVO 7.21 から MS クラスタ, 58

OVO 7.5 から MS クラスタ, 73

ゆ

ユーザー アカウントの移行, 36

り

リモート コンソール, 19, 95, 97

れ

レジストリ キー, 32

自動配布の抑制, 45

ろ

ローカル ユーザー アカウントの設定, 43

ログ ファイル名ルール, 27, 99

